

官禁號外

大正十二年二月二十一日 水曜日

印 刷

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 大正十二年二月二十日(火曜日)午後一時十七分開議                            | 議事日程 第十六號 大正十二年二月二十日                                | 午後一時開議  |
| 質問  | 質問  | 質問  |
| 一 農業政策及米穀法運用ニ關スル質問(土井權大君提出)                         | 本更津大原間鐵道線中線路變更ニ關スル質問(鈴木久次郎君提出)                      | 本更津大原間鐵道線中線路變更ニ關スル質問(鈴木久次郎君提出)                      |
| 西伯利駐兵ニ關スル再質問(橋本喜造君提出)                               | 西伯利駐兵ニ關スル再質問(野村嘉六君提出)                               | 西伯利駐兵ニ關スル再質問(野村嘉六君提出)                               |
| 高等試驗令ニ關スル質問(横山勝太郎君外三名提出)                            | 北樺太油田ニ關スル再質問(高野敷君提出)                                | 北樺太油田ニ關スル再質問(高野敷君提出)                                |
| 羅馬法王廄トノ使節交換ニ關スル質問(押川方義君提出)                          | 羅馬法王廄トノ使節交換ニ關スル質問(押川方義君提出)                          | 羅馬法王廄トノ使節交換ニ關スル質問(押川方義君提出)                          |
| 煙草專賣法中改正法律案(政府提出)                                   | 煙草專賣法中改正法律案(政府提出)                                   | 煙草專賣法中改正法律案(政府提出)                                   |
| 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉                                   | 都市計畫法中改正法律案(政府提出)                                   | 都市計畫法中改正法律案(政府提出)                                   |
| 律案(政府提出)  | 明治四十一年法律第三十七號中改正法                                   | 明治四十一年法律第三十七號中改正法                                   |
| 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉                                   | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 種牡馬検査法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)                            | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉                                   | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 產業組合中央金庫法案(床次竹二郎君外十一名提出)                            | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 勞働組合法案(板野友造君提出)                                     | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 出版取締法案(星島二郎君提出)                                     | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 國籍法中改正法律案(植原悅二郎君外二名提出)                              | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案(阿部武智雄君外十七名提出)                     | 第一讀會  | 第一讀會  |
| 青島罹災民救恤ニ關スル建議案(提出者岩切重雄君)                            | 河上哲太君   | 木村清三郎君  |
| 山口義一君   | 山崎猛君  | 木村清三郎君  |
| ○議長(柏谷義三君)諸般ノ報告ヲ致シマス                                | ○議長(柏谷義三君)諸般ノ報告ヲ致シマス                                | ○議長(柏谷義三君)諸般ノ報告ヲ致シマス                                |
| 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ                                 | 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ                                 | 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ                                 |
| 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出)      | 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出)      | 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出)      |
| 農業倉庫業法中改正法律案(提出者花城永渡君)                              | 正米市場設置ニ關スル建議案(提出者牧山耕藏君)                             | 正米市場設置ニ關スル建議案(提出者牧山耕藏君)                             |
| 仲田徳三君   | 桜内幸雄君   | 桜内幸雄君   |
| 石川善盛君   | 原田佐之治君  | 原田佐之治君  |
| 三善清之君   | 坂上貞信君   | 坂上貞信君   |
| 又今二十日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                               | 一昨十九日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                               | 一昨十九日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                               |
| 衆議院議員鈴木久次郎君提出米國ノ日本人歸化                               | 衆議院議員清水留三郎君提出米國ノ日本人歸化                               | 衆議院議員清水留三郎君提出米國ノ日本人歸化                               |
| 豫定線中線路變更ニ關スル質問ニ對スル答辯書                               | 權ニ關スル再質問ニ對スル答辯書                                     | 權ニ關スル再質問ニ對スル答辯書                                     |
| 第十三 創之助君外一名提出)                                      | 第十四 國有林野所在ノ府縣市町村ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)         | 第十五 帝國在鄉軍人會國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)                  |
| 神社調查會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)                          | 神社調查會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)                          | 神社調查會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)                          |
| 第十六 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                | 第十八 磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)          | 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       |
| 動君外十二名提出)   | 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)                  | 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)                  |
| 第十七 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)                     | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關スル建議案(三枝彦太郎君外二名提出)  |
| 名提出)  | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關スル建議案(三枝彦太郎君外二名提出)  | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關スル建議案(三枝彦太郎君外二名提出)  |
| 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)                     | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)                     |
| 第十四 國有林野所在ノ府縣市町村ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)         | 第二十 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)              | 第二十 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關斯                              |
| 第十五 創之助君外一名提出)                                      | 第十八 磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)          | 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       |
| 第十六 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)                | 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       | 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       |
| 第十七 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                | 第二十 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關斯                              | 第二十 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關斯                              |
| 第十八 磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)          | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)                     | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關斯                                     |
| 第十九 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)                       | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關スル建議案(三枝彦太郎君外二名提出)  | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關斯                   |
| 第二十 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關斯                              | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關斯                                     | 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關斯                                     |
| 第二十一 野岩羽鐵道速成ニ關斯                                     | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關斯                   | 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關斯                   |
| 第二十二 富士山ヲ中心トスル國立公園ノ設定及岳麓一週鐵道速成ニ關斯                   | 第二十三 大漁船獎勵ニ關スル建議案(櫻内幸雄君外二名提出)                       | 第二十三 大漁船獎勵ニ關スル建議案(櫻内幸雄君外二名提出)                       |
| 第二十三 大漁船獎勵ニ關スル建議案(櫻内幸雄君外二名提出)                       | 第二十四 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出) | 第二十四 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出) |
| 第二十四 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(以上二月十九日提出) | 第二十五 大正九年勅令第四百五號適用ニ關スル建議案(提出者若林徳懋君)                 | 第二十五 大正九年勅令第四百五號適用ニ關スル建議案(提出者若林徳懋君)                 |
| 第二十五 大正九年勅令第四百五號適用ニ關スル建議案(提出者若林徳懋君)                 | 第二十六 正雄君平田民之助君                                      | 第二十六 正雄君平田民之助君                                      |
| 第二十六 正雄君平田民之助君                                      | 提出者佐野夫次郎君   | 提出者佐野夫次郎君   |
| 第二十七 提出者佐野夫次郎君                                      | 原田俊雄君   | 原田俊雄君   |
| 第二十八 提出者原田俊雄君                                       | 島田俊雄君   | 島田俊雄君   |
| 第二十九 提出者島田俊雄君                                       | 平田民之助君  | 平田民之助君  |
| 第三十 提出者平田民之助君                                       | 島田俊雄君   | 島田俊雄君   |
| 第三十一 提出者島田俊雄君                                       | 佐野正雄君   | 佐野正雄君   |
| 第三十二 提出者佐野正雄君                                       | 原田佐之治君  | 原田佐之治君  |
| 第三十三 提出者原田佐之治君                                      | 坂上貞信君   | 坂上貞信君   |
| 第三十四 提出者坂上貞信君                                       | 又今二十日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                               | 又今二十日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                               |
| 第三十五 又今二十日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ                          | 衆議院議員鈴木久次郎君提出米國ノ日本人歸化                               | 衆議院議員鈴木久次郎君提出米國ノ日本人歸化                               |
| 第三十六 衆議院議員鈴木久次郎君提出米國ノ日本人歸化                          | 豫定線中線路變更ニ關スル質問ニ對スル答辯書                               | 豫定線中線路變更ニ關スル質問ニ對スル答辯書                               |





ル、小作ヲ致シテ居テモ收入カ無イ、生活カ出来ナイト云  
コトニ私ハ原因致シテ居ルモノナリト考ヘルノデアリマス、  
現ニ農商務省ニ於テ農家經濟ノ調査ヲ爲ステ居リマス、  
即チ大正九年度ノ調査ニ依リマスト、此小作者ガ經營ノ田畠  
一町五反——一町五反ノ小作ヲ致シテ居ル、五人ノ家族デ  
一町五反ノ小作ヲ致シテ居ル、其收入ハ一年幾ラデアルカト  
言フタナラバ千三百六十一圓二十三錢、ソレニ對シテドレダケ  
生活費、經營費が要ルカト云ヘド千三百八十六圓十八錢、  
差引ドレダケ損失ヲスルカ、働イテ二十四圓九十五錢ノ小  
作者ハ損ヲシナケレバナラヌト云フ統計ニ相成フテ居ルノデ  
アリマス、即チ彼等ノ生活不安ト云フ所ヨリ致シマシテ、斯  
ノ如ク惡ムベキ不幸ノ現象ヲ農村ニ來シツ、アルノデアリマ  
スルカ、此問題ニ對シテ政府ハ如何ナル對策ヲ御持ニナフテ居  
ルカ、即チ小作爭議ニ對シテ如何ナル對策アリヤ、農民思想  
ノ惡化ヲ防止スルニ付テ如何ナル御考ヲ持テ居ラレヌカ、此  
事ガ第一ニ承リタイノデアリマス(拍手)第二トシテ承リタイ  
ノハ、自作農及農村ノ中產階級ハ、逐年滅亡シツ、アル、毎  
年減リツ、アルノデアリマス、之ニ對シテ、政府ハ如何ナル對  
策アリヤ、是ガ第二問デアリマス、御承知ノ通り年々一万戸  
借錢ヲ致シテ居ルコトガ一億万圓計上サレテ居ルノデアリ  
マス、而モ自作農ノ經濟狀態ハドウデアルカト云ヘバ是又農  
商務省モ御承知ノ通り、大正九年ニ於ケル調查ニ依レバ、  
此處ニ家族數七人アル、七人ノ家族ノ自作農ガアル、而シテ  
所有ノ田畠ハ二町一反所有致シテ居ル、サウシテ之ヲ自ラ  
耕シマシテ一年ニ幾ラノ收入、所謂總收入ガアルカト云ヘバ  
一千六百十四圓六十九錢、然ラバ、幾ラノ生產費、幾ラノ生  
活費ト云フモノヲ使フカ、其總計ハ一千七百三圓七十錢、  
差引八十九圓一錢ノ損ト相成ルノデアリマス、所謂生活不  
安ト云フモノハ斯ノ如キ事ヨリ致シテ來ルノデアリマス、是モ  
亦私ガ喋々申サズトモ政府御承知ノ通リデアル、然ラバ政  
府ハ此自作農ヲ如何ニ救濟スルカ、又中產階級ガ滅亡シツ  
ツアルノヲ如何ニ防止サレルカ、其御對策ヲ具體的  
ニ明ニ御示シガ願ヒタイノデアリマス(拍手)第三問ト致  
シマシテ小作争議、中產階級ノ滅亡、農民思想惡化ノ原因  
ハ悉ク經濟組織ノ革命、即チ資本萬能機械萬能主義横  
行ノ爲メ、彼等農民ノ家族的手工業ニ依ル自給自足ノ  
途ヲ奪ハレタルニ在リト私ハ考ヘルノデアリマス、政府ノ御考  
ハ那邊ニ在ルカト云フコトヲ御伺致シタインデアリマス(拍  
手)即チ前刻繕々申シマシタ通り今日ノ農民特ニ農業勞働

者ト云フ者ノ生活ハ、不安モ收入ハ不足、頃ソシヨケレバ  
ナラヌト云フ、其一大原因ハ何デアルカ、經濟組織ノ革命ヨ  
リ私ハ來テ居ルモノナリト斷定スルノデアリマス、丁度先日  
植原悅二郎君並ニ田淵豊吉君ヨリモ斯ウ云フ御説ガアリ  
マシタガ、私モ確ニ此經濟組織ノ變遷ヨリ來テ居ルモノデア  
ルトスウ考ヘル、ドウデアルカト云ヘバ吾々ノ幼少ノ頃ハ、私  
ノ家ニ於テ綿モ作ッテ居ツタノデアル、機モ織ツテ居ツタノデアル、  
絲モ拵ヘテ居ツタノデアル、總テ此自給自足ノ經濟ヲ以テ、漸  
ク吾々農民ノ家庭ト云フモノ、經濟ハ保タレテ居ツタノデア  
リマス、然ルニ御承知ノ通り大ナル機械ノ應用ニ依リマシ  
テ、即チ鐵、電氣、蒸氣ノ應用ニ依リマシテ、大機械ニアラザ  
レバ大工業ガ行ハレナイ、大工業ヲ行ハウトスルニ付テハ資  
本ノ合同ノ必要ガアルト云フ所ヨリ致シマシテ、總テノ事業  
ハ大工業、大經營ノ下ニ行ハル、ト云フコトニ相成リマシ  
テ、即チ吾々幼少ノ頃ニ家庭的ノ工業、自給自足ノ經濟ト  
云フモノガアリマシタノガ、ソレ等ノ大資本、大機械ノ爲ニ奪  
去ラレタノデアリマス、又煙草ニ致シマシテモ、酒三致シマシ  
テ、醬油ニ致シマシテモ、是又自給自足ノ經濟ノ下ニ醸造  
並ニ製造サレテ居ツタノデアリマスルケレドモ、煙草ハ御承知  
ノ通り專賣トナリ、酒、醬油モ是又大工業ニ非レハ醸造スル  
コトヲ得ズト云フガ如キ狀態ニ相成ツタノデアリマス、是ガ即  
チ今日農村ガ苦シム小農ト云ハズ、中農ト云ハズ、小作ト云  
ハズ、苦シム所ノ一大原因デアルトスウ私ハ考ヘルノデアル、  
政府ノ御考ハ果シテ、ドウデアリマスカ、爰テ第四ノ御尋ヲ致  
スノデアリマス、是ニ於テカ農村振興ノ第一要義ハ、農村ニ  
於ケル所ノ團體的自給自足ノ方策ヲ講ズルニ在リ、是ヨリ  
他ノ方法ハ無トイ私ハ考ヘル、即チ自給自足ガ奪去ラレタ  
ノデアルガ故ニ、何等カノ形ヲ以テ自給自足ノ經濟ト云フ  
給自足ノ方策ヲ講ズルノ外途ナシト私ハ考ヘルノデアル（拍手）  
ト云フガ如キコトハ今日ノ時代、今日ノ時勢ニ於テ言フベク  
シテ行フコトガ出來ナイ、是ニ於テカ已ムナク此團體的ノ自  
給自足ノ方策ヲ講ズル所ノ必要ガアル、ケレドモ個人的ノ自給自足  
モノヲ復舊スル所ノ必要ガアル、彼等ノ  
ソコテ私ハ毎年此農業組合ト云フモノヲ組立テ、彼等ノ  
共同ノ下ニ、勞資協調ノ下ニ經濟的ノ組合ヲ造リ、其經濟  
的ノ組合ニ依リ機能發揮ニ依テ、團體的自給自足ノ途ヲ  
又共同デ生産シ得ラル、所ノモノ、醬油デアルカ、味噌デ  
講ジナケレバナラヌト云フコトヲ度ニ論ジタノデアリマス、即  
チ其組合ノ力ニ依リ日用品或ハ原料品ハ共同デ購入スル、  
又生産ヲシタ所ノ生産品所謂農產物ハ共同ニ販賣スル、  
等ノ仕事ヲ致スニ付キマシテハ、金モ要リマセウ、又金ノ餘ル

所ノ人ニアルニアリマセウ、ソコニ於テ相互金融ノ途ヲ開カ  
ナケレバナラヌ、斯ノ如ク致シマシテ所謂團體的ノ自給自足  
ノ方策ノ下ニ農民ノ生活費ヲ低減シ、又農產物其他ノ日  
用品ノ製造、原料品ノ製造ナドノ生産費ヲ減少シ、詰ラナ  
イ所ノ進ンデハ浪費ノ節約ヲ圖リ、共存共榮ノ實ヲ此際舉  
ガルト云フコトガ、根本的ニ必要デアルト、斯ウ私ハ考ヘルノ  
デアリマス、併ナガラ是等ハ消極手段デアリマスルガ、更ニ進  
シテ農村ト致シマシテハ、積極的ノ仕事ヲヤラナケレバナラ  
ヌ、ドウシテモ此消極的タクデハ生活漸ク安穏ナリト云フコ  
トデアリマシテ、彼等ノ經濟的地位ノ向上ヲ圖ルコトハ出來  
マセヌ、仍テ更ニ進ンデ必ズヤ積極的ノ方策ヲ講ズル必要ガ  
アルノデアリマス、ソレハ如何ナル事デアルカ、耕作法ノ改良  
デアリマス、一ツハ耕作法ノ改良デアリマス、神武天皇此方  
同ジヤウナ農業ノ遺リ方ヲヤテ居ル、是等ニ付テモ隨分其  
改良ノ方法ガアルダグラウト思フ、或ハ此機械ノ應用或ハ電  
氣ノ應用、鐵ノ應用、蒸氣ノ應用、所謂此機械的ノ耕作法  
ト云フコトニ改良スルノ必要ガアルト考ヘルノデアリマス、更  
ニ肥料ノ改良、農具ノ改良、農具ト云ヒマシテモ初ヲ摺  
ル、或ハ精白ヲスル、昔ノ如ク碓ト云フガ如キ物デ、今日三  
百年モ四百年モ前ノ古キ農具ヲ以テハ、今日ノ時世ニハ適  
シマセヌ、是ニ於テ電氣ヲ應用シ精白モ電氣デヤル、初摺モ  
共同的ニ電氣デ行フト云フコトニ改良ヲシナケレバナラヌ、  
更ニ進ンデハ共同的副業ノ獎勵及發達、土地ノ開拓及改  
良是等ガ農村ニ於ケル所ノ積極的ノ方策デアリマス、斯ノ  
如ク致シマシテ農村ノ土地效力ノ増進ヲ圖ルト云フコトガ、  
取モ直サズ農村ヲ振興スル所ノ第二ノ要義デアルト斯ウ私  
ハ考ヘルノデアル、政府ノ御所見ハ如何デゴザイマスカ、第五  
ト致シテ御尋致スノハ、更ニ農村ニハ共存共榮ノ機關トシ  
テ免ニ角形ノ上三於テ、法制上ニ於テ森林組合、漁業組合、  
水產組合、各種農會者產組合、產業組合、水利組合、耕  
地整理組合、蠶絲組合、茶葉組合、農業的同業組合ナド、  
多數ノ組合ヲ公認致シテ居ル、又出來テ居リマス、併ナガラ是  
等ノ共存共榮ノ機關デアル所ノ組合ノ機能ヲ發揮セシムル  
所ノ、金融ノ大機關ト云フモノカアリマセヌ、ソレカニ何レ  
ノ組合モ孤影罕然ノ觀ガアルノデアリマス、何レモ發達致シ  
デアリマセウ、是ニ於テカ近時產業組合中央金庫ノ設立ノ  
必要ナル事ガ論議サレ、本日政友會カラモ法律案ガ提出サ  
レルト云フコトデアリマス、又私モ先日建議ヲ致シタ次第デ  
アリマスルガ、抑、此產業組合中央金庫ト云フモノハ、單ニ

産業組合アルトカ、水産組合アルトカ、畜産組合アルトカ、各種ノ共存共榮ノ大機關トナルノアルカ、マダ政府ガ御提案ナサタ譯アリマセカラ、政府ニ斯ノ如キ事ヲ御尋致スノハ如何カト思ヒマスガ、免ニ角是等ノ共存共榮ノ機能ヲ發揮セシメル所ノ金融機關トシテ、産業組合中央金庫ニ對スル御意見ハドウデアルカ、又更ニ産業組合中央金庫ナルモノガ各種ノ共存共榮ノ組合、所謂團體ヲ救濟スルコトカ出來ナイトスルナラバ、是等機能ヲ發揮セシメル所ノ金融ハ如何ナル方法ヲ以テ講ゼラレルカ、此事ガ承リタイノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ハバ各種農村組合ノ金融ノ方策果シテ如何、此事ガ承リタイノデアリマス、此根本ヲ定メルニ非ザレバ、農村ニ於テ積極の方策ヲ講ジヤウト致シテモ、言フベクシテ行フコトカ出來ナイ結果ニ終ルガ爲ニ、最モ肝要ナ事アラウト思ヒマスガ爲ニ、特ニ聲ヲ大ニシテ御尋スル譯デアリマス、ソレカラ第六問、土地ノ開拓及改良事業ノ勃興ハ内地植民ヲ獎勵シ、失業者ニ職業ヲ與ヘ、更ニ食糧政策ノ樹立ニ效果アリト信ズル、然ルニ此方面ニ對スル金融ノ途ナキ爲其事業ノ進捗ヲ見ズ、政府ノ對策如何是ガ第六問デアリマス、政府ハ必ズ斯ウ言ハレルデアリマセウ、決シテ政府ハ土地ノ開拓或ハ改良ト云フコトハ等閑ニ致シテ居ルノデハナイ、開墾助成法ト云フモノガアル、又耕地整理法ト云フモノガアル、斯ウ言ハレマス、所ガ中ニ耕地整理法ト云フモノガアル、千拓アルトカ若クハ改善等ヲ致サウト致シマシテモ、今日ノ狀態ハ金ノ出場ガ無イノデアリマス、ソレガ爲ニ到底開墾助成法ノ如ク唯、此處マデ來イ甘酒進上ト云フ如キ法律デハ、土地ノ開墾開拓ト云フヨシク調査シタノデアリマス、農商務省モ調査ナス、テ居ルケトハ出來ナイ狀態ト相成テ居ル、現ニ福岡縣ニモ千拓ノ土地多ク、廣島縣ニモ多イ岡山縣ニモ多イ、兵庫縣ニモ多イ大阪府ニモ多イ、私ハ一年間掛リマシテ是ダケノ土地ヲ親ガ無イト云フ狀態デアリマシテ、空シク國家ノ立派ナ土地ヲ遊バサナケレバナラヌト云フ狀態ニナシテ居ル、又開田ノ例トレドモ、愈々之ヲ實行致サウトスルトキハ、多クノ資產家ノ左様ナ事業ニハ氣ヲ付ケナイ、元氣ナ人間ガヤラウトシテモ金ガアル、北海道ニモアルケレドモ水利ト云フモノガ不完全ナル爲メ、之ヲ開クコトカ出來ヌノデアリマス、是ニ於テ私ノ考フルニ、此水利ト云フモノノ國營ニ致シテ宮崎縣ノ如キ、又北海道ノ如キ所ハ、水利事業ヲ國營デ致スト云フ方策ヲ御立テニチタラ自然開墾、開拓、開田ト云フ事が出來ハセスカトスウ考ヘルノデアリマス、現ニ福島縣ニ於テハ維新後

路ヲ御捕ニナタダ例ガアルノデアリマス、今日ニ於テ斯ノ如ク國ガ水利ノ仕事ヲスル、是ハ如何デアリマス、又此開墾事業ハ之ヲ政府事業トシタラドウデアラウトカト思ヒマスガ、悉ク庫ナルモノガ各種ノ共存共榮ノ組合、所謂團體ヲ救濟スルコトカ出來ナイトスルナラバ、是等機能ヲ發揮セシメル所ノ金融ハ如何ナル方法ヲ以テ講ゼラレルカ、此事ガ承リタイノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ハバ各種農村組合ノ金融ノ方策果シテ如何、此事ガ承リタイノデアリマス、此根本ヲ定メルニ非ザレバ、農村ニ於テ積極の方策ヲ講ジヤウト致シテモ、言フベクシテ行フコトカ出來ナイ結果ニ終ルガ爲ニ、最モ肝要ナ事アラウト思ヒマスガ爲ニ、特ニ聲ヲ大ニシテ御尋スル譯デアリマス、ソレカラ第六問、土地ノ開拓及改良事業ノ勃興ハ内地植民ヲ獎勵シ、失業者ニ職業ヲ與ヘ、更ニ食糧政策ノ樹立ニ效果アリト信ズル、然ルニ此方面ニ對スル金融ノ途ナキ爲其事業ノ進捗ヲ見ズ、政府ノ對策如何是ガ第六問デアリマス、政府ハ必ズ斯ウ言ハレルデアリマセウ、決シテ政府ハ土地ノ開拓或ハ改良ト云フコトハ等閑ニ致シテ居ルノデハナイ、開墾助成法ト云フモノガアル、又耕地整理法ト云フモノガアル、千拓アルトカ若クハ改善等ヲ致サウト致シマシテモ、今日ノ狀態ハ金ノ出場ガ無イノデアリマス、ソレガ爲ニ到底開墾助成法ノ如ク唯、此處マデ來イ甘酒進上ト云フ如キ法律デハ、土地ノ開墾開拓ト云フヨシク調査シタノデアリマス、農商務省モ調査ナス、テ居ルケトハ出來ナイ狀態ト相成テ居ル、現ニ福岡縣ニモ千拓ノ土地多ク、廣島縣ニモ多イ岡山縣ニモ多イ、兵庫縣ニモ多イ大阪府ニモ多イ、私ハ一年間掛リマシテ是ダケノ土地ヲ親ガ無イト云フ狀態デアリマシテ、空シク國家ノ立派ナ土地ヲ遊バサナケレバナラヌト云フ狀態ニナシテ居ル、又開田ノ例トレドモ、愈々之ヲ實行致サウトスルトキハ、多クノ資產家ノ左様ナ事業ニハ氣ヲ付ケナイ、元氣ナ人間ガヤラウトシテモ金ガアル、北海道ニモアルケレドモ水利ト云フモノガ不完全ナル爲メ、之ヲ開クコトカ出來ヌノデアリマス、是ニ於テ私ノ考フルニ、此水利ト云フモノノ國營ニ致シテ宮崎縣ノ如キ、又北海道ノ如キ所ハ、水利事業ヲ國營デ致スト云フ方策ヲ御立テニチタラ自然開墾、開拓、開田ト云フ事が出來ハセスカトスウ考ヘルノデアリマス、現ニ福島縣ニ於テハ維新後

路ヲ御捕ニナタダ例ガアルノデアリマス、今日ニ於テ斯ノ如ク國ガ水利ノ仕事ヲスル、是ハ如何デアリマス、又此開墾事業ハ之ヲ政府事業トシタラドウデアラウトカト思ヒマスガ、悉ク庫ナルモノガ各種ノ共存共榮ノ組合、所謂團體ヲ救濟スルコトカ出來ナイトスルナラバ、是等機能ヲ發揮セシメル所ノ金融ハ如何ナル方法ヲ以テ講ゼラレルカ、此事ガ承リタイノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ハバ各種農村組合ノ金融ノ方策果シテ如何、此事ガ承リタイノデアリマス、此根本ヲ定メルニ非ザレバ、農村ニ於テ積極の方策ヲ講ジヤウト致シテモ、言フベクシテ行フコトカ出來ナイ結果ニ終ルガ爲ニ、最モ肝要ナ事アラウト思ヒマスガ爲ニ、特ニ聲ヲ大ニシテ御尋スル譯デアリマス、ソレカラ第六問、土地ノ開拓及改良事業ノ勃興ハ内地植民ヲ獎勵シ、失業者ニ職業ヲ與ヘ、更ニ食糧政策ノ樹立ニ效果アリト信ズル、然ルニ此方面ニ對スル金融ノ途ナキ爲其事業ノ進捗ヲ見ズ、政府ノ對策如何是ガ第六問デアリマス、政府ハ必ズ斯ウ言ハレルデアリマセウ、決シテ政府ハ土地ノ開拓或ハ改良ト云フコトハ等閑ニ致シテ居ルノデハナイ、開墾助成法ト云フモノガアル、又耕地整理法ト云フモノガアル、千拓アルトカ若クハ改善等ヲ致サウト致シマシテモ、今日ノ狀態ハ金ノ出場ガ無イノデアリマス、ソレガ爲ニ到底開墾助成法ノ如ク唯、此處マデ來イ甘酒進上ト云フ如キ法律デハ、土地ノ開墾開拓ト云フヨシク調査シタノデアリマス、農商務省モ調査ナス、テ居ルケトハ出來ナイ狀態ト相成テ居ル、現ニ福岡縣ニモ千拓ノ土地多ク、廣島縣ニモ多イ岡山縣ニモ多イ、兵庫縣ニモ多イ大阪府ニモ多イ、私ハ一年間掛リマシテ是ダケノ土地ヲ親ガ無イト云フ狀態デアリマシテ、空シク國家ノ立派ナ土地ヲ遊バサナケレバナラヌト云フ狀態ニナシテ居ル、又開田ノ例トレドモ、愈々之ヲ實行致サウトスルトキハ、多クノ資產家ノ左様ナ事業ニハ氣ヲ付ケナイ、元氣ナ人間ガヤラウトシテモ金ガアル、北海道ニモアルケレドモ水利ト云フモノガ不完全ナル爲メ、之ヲ開クコトカ出來ヌノデアリマス、是ニ於テ私ノ考フルニ、此水利ト云フモノノ國營ニ致シテ宮崎縣ノ如キ、又北海道ノ如キ所ハ、水利事業ヲ國營デ致スト云フ方策ヲ御立テニチタラ自然開墾、開拓、開田ト云フ事が出來ハセスカトスウ考ヘルノデアリマス、現ニ福島縣ニ於テハ維新後

設置セラレ、所謂地租ニ相當ノ免稅點ヲ擁ヘ、更ニ累進稅率ヲ課スルト云フ所ノ方針ヲ執ルニ非ザレバ、土地分配ノ公正ヲ期セラレナイ、矢張土地兼併ト云フが如キコトニナリマシテ、土地ノ分配ノ公正ヲ期スルコトハ出來ナイ、更ニ小作保護、自作獎勵ニモ何等ノ效果ナキモノナリト考ヘル、又地租二歩減ノ說ガ出テ居リマスカ、二歩減ノ如キハ徒ニ大地主、不在地主ヲ擁護致シマシテ、農業勞働者アル所ノ小作トカ或ハ自作ト云フモノヲ苦痛ニ陥ラシメル、而シテ小作爭議頻出ノ動機ヲ造ルモノナリト私ハ考ヘルノアリマス(拍手)何故ナレバ地租ナラ地租が減レバ地租ノ附加稅モ減ル、附加稅が減レバ何ガ殖エルカト云フト、少クトモ戶數割が増加シナケレバナラス、悉ク戸數割ノ全部ヲ國ニ於テ御負擔ナサルコトモ出來マスマイ、所謂義務教育ノ國庫負擔等戸數割全部ノ負擔ナシテ居ル、然ラバ其尼足ナサル所ノ戸數割ハ誰ガ負擔スルカト云ヘバ、不在地主デアリマセヌ、所謂小サナル所ノ農業勞働者、在住農業勞働者ガ負擔シナケレバナラス、然ラバ此小作人モ自作人モ益、負擔が重クナル、負擔が重クナレバ地主ニ喰シテ掛クテ、年貢ヲ負ケテ吳レノ、斯ウ云フ事ヨリ致シマシテ小作争議が益、頻出スルコトニナル、寧口頻出スルノ動機ヲ造ルモノト私ハ考ヘルノアリマス、政府ノ御所見ヘドウデアリマスカ、即チ質問ハ此十項デアリマス、此時此際農民生活ノ安定、農家經濟ノ維持確立ヲ圖リ、更ニ進ンデ土地效力ノ増進ヲ圖リ、殊ニ食糧及人口ノ調節ヲ圖ルト云フコトハ、國家ノ一大急務ナリト私ハ考ヘルノアリマス、且又產業立國ノ基礎此ニ在リト考ヘテ此質問ヲ致シタ次第ニアリマス、何卒誠意アル御答辯ヲ望ミマス(拍手)

又、同國ニ於ケル綿價ハ一擔約四十四五圓ナルヲ以テ之ニ還  
國ニ於ケル綿價ハ一擔約四十七八圓以下ニテ本邦ニ  
賃諸費ヲ加フルトモ一擔約四十七八圓以下ニテ本邦ニ  
輸入スルコト亦難事ニアラズ  
米ト綿ノ外我國ガ輸入ニ待ツ必需品中、大小麥、大小  
豆、砂糖、落花生、小麥粉、豚毛、羊毛、獸脂、獸皮等ハ  
悉ク容易ニアラジル國ニ於テ產出セラル、モノナレバ、若シ  
本邦耕作地面積ノ約半バニ當ル程ノ耕地ヲ同國內ニ  
設ケ得テ之ニ我農事者ヲ移住セシムトセバ我國民ノ  
生活資料全體ハ内外同胞ノ自給ニ依リテ潤澤ナルヲ得  
本邦耕作地ノ面積ハ固畧ヲ合セテ五百四十七万〇  
四百五十七町歩、農業者ノ戸數ハ五百四十八万一千  
百八十七戸、一戸ニ當ル平均耕作面積ハ一町歩ニ充タ  
ズ、然レドモ若シアラジル國ニ於テ三百万町歩ノ耕地ヲ  
得テ之ニ牛馬耕ヲ施ストセバ一戸ニテ平均二十町歩ヲ  
耕作スルコトヲ得ベキガ故ニ之ニ對シテ移住セシムベキ  
我農民ハ僅々十五万戸ニシテ足ル  
十五万戸ノ農民ハ毎戸五人トシテ七十五万人ナリ、之  
ガ移住ニ幾何ノ年月ヲ要スベキ乎、惟フニ若シ非常ノ發  
力ヲ以テスレバ約三十年ニシテ成就スルヲ得ベキカ、其ノ  
年割別表乙ノ如シ  
ブラジル國ニ於テ上記移住者ニ應ズル設備トシテ六百  
万町歩ノ土地ヲ購入シ其半面積ヲ耕地トシ他ノ半面  
積ヲ原野、山林トス、其ノ經費及收支ノ概算ハ別表甲ニ  
示ス  
本經營三要スル資金ハ一億圓ニシテ之ヲ十ヶ年間ニ支  
出セバ足ル政府ハ之ニ對シ三十ヶ年間年六歩ノ利子ヲ  
補給シ尙移住者ノ旅費ヲ支給スルコトヲ條件トス、其年  
割額ハ別表丙ニ示ス  
以上甲、乙、丙ノ三表ハ大體ノ梗概ヲ見メスヲ旨トシ  
タレバ尙疎略ヲ免レバ特ニ覽著ノ研究ヲ望ム  
右政府ノ支給、補給等ノ一案ト假ニ例示シタルニ過ギ  
ズ、其他低利資金ノ借入、國策的特別債券又ハ三十  
三年据置還付公債發行等、諸方案トシテ研究スベキ  
モノアラン

答辯ニ對スル松本君平君ノ意見

松本君平君

○議長(粕谷義三君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ延期ニ決シマス——續イテ質問ノ答辯ニ對スル意見ノ陳述ヲ許シマス、支那財政列國共同管理ニ關スル件——松本君平君

○議長(柏谷義三君) 質問ノ第一、第三、第七、右各質問ニ對シマシテハ、政府ヨリ答辯書ガ參<sup>テ</sup>居リマスルカラ日程ヨリ省キマス、質問ノ第五、第六ハ、各提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

歩ノ山林、原野(原價一千八百万圓)加工場(投資四千八百萬圓)等ヲ擧ゲテ交付シ其共有財產トシテ永ク保有セシム、移住民ハ各自ガ所有スル財產ノ收入トコノ共有財產ノ收益トヲ併せ得テ偉大ナル發展ヲ遂グルコト

○松本君平君　本員ハ曩ニ支那財政ノ列國共同管理ニ  
關スル質問ヲ政府ニ提出シテ置イタノデアリマス、之ニ對シ  
テ外務大臣ヨリ答辯カアダ所ノモノハ頗ル要領ヲ得ズ、且  
ツ私が此問題ニ付テ實問ヲ發シタル事柄トハ大變意味ノ  
違ツタ事ニ付テノ御答辯グアタ譯デアリマス、私ハ此支那ノ  
財政ヲ外國が管理スルト云フ事柄ハ、現代ノ支那ニ取テ  
非常ニ重大ナ問題デアリテ、又今後支那ノ財政ノ成行ヲ見  
テ洵ニ深キ憂ニ堪ヘザル者デアリマス、而シテ之ニ對スル外  
務大臣ノ御答辯ハ、所謂霞ケ闊一流ノ御答辯ニアリ、雲トモ  
モ霞トモ付カナイヤウナ曖昧タルモノノアル、ソレ甚ダ遺憾  
ニ思フノデアリマスカ、列國が支那ノ財政ヲ管理スルト云フ  
問題ハ、既ニ支那ノ各新聞ニ於テ唱ヘラレ、支那ノ南方ノ方  
面ニ於テハ支那亡國ノ端開ケリトマノ、非常ナル悲鳴ヲ揚  
ゲテ居ル問題デアリマス、此問題ニ對シテ私ハ政府ノ意圖  
ヲ聞キ、且ハ一面ニハ國民及議會ノ深甚ノ考慮ヲ要セナケ  
レバナラナイ事ト思テ居リマス、本議會が開ケテ以來、外交  
問題ニ付テハ、非常ニ貴衆兩院共徹頭徹尾外交ノ失敗ニ  
付テ彈劾シ、或ハ論究シテ居ルノデアリマス、本員モ東現代  
ノ外交ノ甚シク振ハザル事ヲ嘆息スル一人デアリマスルガ、  
強テ此問題ニ付テ政府ヲ窮屈シヤウトモ思テハ居ラナイノ  
デアリマス、唯、支那財政ノ管理ト云フ問題ガ、必ズ近キ將  
來ニ起シテ來ベキ問題デアリテ、而シテ之ニ對スル政府ノ考ガ  
定マジデ居ラズ、又國民モ何等之ニ付テ考慮ヲ廻ラサズニ居  
ルト云フコトハ、實ニ東洋ノ禍根ヲ起ス所以デアリテ、爲ニ近  
キ將來ニ起シテ來ラントスル此大問題ニ付テ、政府ハ條程確  
カリシタル考ヲ持テ之ニ對應シナケレバナラナイ、又國民モ

議會モ共ニ此問題ハ深キ考慮ヲ要スル問題デアルト自分  
ハ信ジテ居ルノアリマス、由來此日本ノ外交ノ所謂露ケ  
居テ、其一ツハ祕密主義ヲ絶エズ維持シテ居ルト云フ事、  
又一面ニハ非常ナル刹那主義デ、其問題ガ起テ來ル時マ  
デハ深キ考慮ヲ運ラサズニ居ル、一面ニハ事件ノ眞相ノ成  
ベク隱蔽シテ國民ニ知ラシメズ、議會ニ於テ之發表セズ、  
唯、當局者ノミガ此問題ニ付テ頭ヲ痛メテ居ル、又問題ガ  
起テ來ナケレバ霞ヶ關外交ノ人ハエライ考慮ヲ運ラサズ  
ニ、唯、其日暮シ行當リバタリノ外交ヲシテ居ルガ爲ニ、茲  
ニ重大ナル問題ガ起テ來レバ、動モセレバ非常ナル失態ヲ  
演ジ、非常ナル狼狽ヲシテ、其事柄ヲ國民ニ知ラシメズ、極  
テ祕密ニ外交ヲシテ居ルト云フコトガ今日ノ霞ヶ關外交ノ  
私ハ病弊デアルト思フ、故ニ起テ來ル所ノ外交上ノ問題ニ  
對シテハ何等ノ用意モシテ居ラナイ、極端ニ言フナラ極テ  
不用意ニ此國際的問題ヲ考ヘテ居ルガ爲ニ、殆下寸前暗  
黒、事件ノ勃發スルト同時ニ、國民モ是等ニ對スル準備モ  
ナイ、政府ハ無論其一時ノ智慮ヲ以テ其問題ヲ解決シヤウ  
シテ行カナケレバナラスト云フコトガ、此ニ在ルノダラウト思  
ト思フ爲ニ、常ニ外交ニ於テ大ナル失敗ト、大ナル攻撃ヲ受  
クル原因ヲ造ラテ居ルト思フ、ドウシテモ今後ノ外交ハ國民  
的外交ヲ祕密ノ中ニ葬リ、由ラシムベシ知ラシムベカラズ  
ト云フヤウナ態度ヲ執テ、常ニ此外交ノ重要ヲ問題ヲ議會  
ニ發表セズ、又其真相ヲ告ゲナイ、斯ノ如クニシテ常ニ事件  
ガ起テ來ルト同時ニ、非常ナル狼狽ノ態度ヲ示ス、是が今  
日ノ外交ノ誤リヲ惹キ起ス所以デアル、又大ナル失敗ノ原  
因ヲ造ラテ居ルト思フノデアル、此問題ニ付テモ——今起ラン  
トスル所ノ支那列國財政管理ノ問題ニ付テモ同様デアル  
ト思フ、政府ハ未だ國民ニ其眞相ヲ知ラシメナイ、本員ガ此  
問題ニ對シテ質問書ヲ出シテモ、成ベク其質問ノ要領ヲ示  
サナイヤウニ、其事件ガ如何ニモ無キガ如クニ之ヲ糊塗シテ  
居ルノデアル、今日マダ此支那財政管理ノ問題ハ、確實ナ  
ル具體的ノ形ニ於テ現レテ居ラナイケレドモ、必ズ近キ將來  
ニ於テ、驚クベキ勢ヲ以テ、支那財政管理ニ列國ノ勢力ガ  
及シテ來ルコトハ疑ノナイ事實デアル、既ニ其形ヲ現シテ居  
ル、而シテ霞ヶ關外交官ハ之ヲ有ルカ如ク無キガ如ク、ソレ  
ヲ殆ド曖昧模稟ノ間ニ葬テ居ルト云フコトハ、此事件ノ眞  
相ヲ國民ニ隠シ、サウシテ堅然トシテ大ナル形ニ於テ現レテ  
來タトキニ於テ、之ニ對スル何等ノ具體的ノ方案ヲ持テ居  
ラズト云フヤウナ、大失態ヲ何時モ演ズルノデアル、御承知

ノ如ク革命ノ亂アテ以來既三十數年經テ居ル、此間ニ於テ支那ノ財政ノ狀態、支那ノ政治上ノ狀態ハ非常ナ混亂ニ混亂ヲ重ネテ、各省ニハ督軍カ割據シテ所謂督軍政治ヲシテ、サウシテ獨立ノ國家ノヤウナ形ヲ成シテ、今日支那ノ政治ヲ分割シテ居ルノデアル、所謂唐ノ唐末ニ藩鎮ガ亂ヲ爲シタ如キ此督軍政治ガ、今日ノ支那ノ混亂、政治上財政上ノ所謂混亂ヲ惹起ス所ノ原因ヲ造ツテ居ルノデアル、十數年革命以來間斷ナキ、歇ム時ナキ所ノ此戰爭内亂、年一年ニ支那ノ混亂ハ甚シキヲ加ヘテ、今日ハ殆ド糜爛敷フベカラザルノ勢ニナシテ來テ居ルノデアル、隨テ北京政府ハ財政上カラン之ヲ見タ時ニハ破産ノ狀態ニ入テ來テ居ルノデアル、今支那ノ國債ハ二十億圓以上ニ達シテ居リマスガ、此二十億圓ノ國債ノ利息サヘモ今日拂ヘナイノデアル、軍隊ノ給金ハ無論拂ヘナイ、官吏ノ俸給サヘモ——中央政府ノ官吏ノ俸給サヘモ、固ヨリ拂ヘナイハ三年モ五年モ拂ハナイ、偶ニ拂フト云フヤウナ有様ニナシテ來レバ、官吏ハマルニ混亂ヲシテ大縣省へ駆逐シテ、サウシテ給金ノ掠奪ヲヤルト云フヤウナ、殆ド名狀スベカラザル所ノ財政上ノ狀態ニ入テ居ルコトハ、諸君ノ知ラル、所テアル、斯ノ如キ支那政府ノ狀態ニ於テ、外債ノ利息ヲ拂ヘナイコトハ明カナ事實ニアリ、偶ニ支那ノ前途殆ド救フベカラズ、絶望ノ此境遇ニ陥タルシ掠奪シテ、中央政府ニハ之ヲ悲觀スル者ハ、支那ノ今日ノ財政、經濟、政治ノ狀態ヲ知シテ居ル者ハ、皆齊シク支那ノ前途寒心ニ堪ヘズ思テ居ル、北京ニ居ル所ノロンドン、タイムスノ通信員「フレサー」ガ「ロンドン、タイムス」ニ此内情ヲ暴露シテ、支那ノ現代ノ政治上、財政上ノ救フベカラザル狀態ヲ列國ニ訴ヘタルコトハ明カナル事實アリテ、サウシテ世界ノ支那ニ關係ヲ持ツ所ノ人々ニ對シテ、大ナル反響ヲ惹起シテ居ルノデアル、最早支那ノ斯ノ如キ狀態ハ、一日モ看過スベカラザル所ノ點マデ來テ居ルノデアリマス、是ニ於テ列國ガ支那ニ有スル所ノ債權ノ保護ヲスルト云フコトハ當然ノ事デアリマス、幾十億ノ支那ニ貸シタ所ノ金ヲ債權國が保護スルガ爲ニ、屢々會議ヲ起シテ支那ノ財政ノ大整理根本的整理ヲセナケレバナラヌ運命ニナシテ來ルコトハ、當然明カナル結論デアル、是ニ於テ昨年十一月デアリマシタカ、列國ガ——列國ト中シマシテ日本ト英吉利ト亞米利加ト佛蘭西ノ北京ニ在ル公使ガ協議ヲシテ、支那ノ政府三財政整理ノ誓告ヲ發シテ居ルノデアリマスソレデ此誓告ニ對シテ、海外務大臣ニドウ云フ内容ノ誓告ヲ發シテ居ルカ、是ハ新

聞ニモ外國電報ニモ出テ居ル事アノ、其警告ノ内容ヲ  
伺フ所ガ外務大臣ハイヤ警告ナドハシテ居ラスト云フコ  
トヲ言ア居ル、是ハ果シテ何カ爲ニ斯ウニ云フ事ヲ言テ居  
カ、天下萬衆ガ皆知テ居ル、今日支那ノ財政ノ殆ド破産  
ニ瀕シテ居テ、外債ノ利子ハモ拂ヘヌ爲ニ、列國ノ債權  
者ガ集テ、支那ノ財政ノ監督ノ爲ニ、四國公使カ昨年ノ暮  
ニ於テ支那財政ノ整理ニ對スル警告ヲ發シタルコトハ、天  
下周知ノ事實アル、所ガ此重大ナル問題ニ對シテ、外務  
省ハイヤサウ云ア警告ヲ發シタ事ハ無イト云フコトヲ言テ  
居ル、私ハ其内容ニ付テ茲ニ外務大臣ヨリ發表シテ貰ヒタ  
イト思フ、何トナレバ是ハ日本ノ國民及政府ガ支那ニ貸付  
ケタル所ノ金ヲ、將來ドウシテ之ヲ取得ルカト云フコトノ重  
要ナル問題デアルノミナラズ支那ニ於ケル所ノ財政ノ監督  
ト云フコトガ、非常ナ支那ノ運命ヲ左右スベキ所ノ結局ハ  
支那ヲ財政的ニ分割スル問題マデ進ンデ行クベキ運命ヲ  
持テ居ル大ナル問題デアル、此警告ヲ四箇國が發シタト云  
フコトハ事實ナルガ、其内容ハドウデアルカ、内容ヲ明ニス  
ル上云フコトガ、今日國民ヲシテ支那ニ對スル此重大ナル問  
題ノ成行ヲ知ラシムル所ノ大ナル必要ノ事デアラウト思フ  
而シテ此財政ノ整理ヲ勸告致シマシタガ、若シ支那ノ政府  
ニ於テ其整理ヲスルコトガ出來ナカタトキニハドウマルカ、  
無論支那ノ政府ニ於テ支那財政ノ監督ヲシ得ル所ノ力ハ  
無イ、能力ハ無イ、兵隊ノ給金ハ勿論、役人ノ月給サヘ拂ヘ  
ナイ政府ガ、二十何億ノ外債ニ向テ利息ヲ拂ヘヤウガナイ、  
之ヲ列國ガ支那ニ向テ自發的ニ財政ヲ整理セヨト云フ  
トヲ責メルト云フコトハ、殆ド不可能ナル事ノヤウニ思フガ、  
併ナガラ免ニ角モ財政ヲ整理セヨト云フコトヲ列國ガ警告  
ヲ發シテ、ソレハ何日迄ニ其財政ノ整理ヲスベキコトデアル  
カ、其詳細ノ事ハ分カラヌ、分カラヌガ若シ支那政府ニシテ  
此財政ノ整理ヲスルコトか出來ナカタ場合ニハドウスルカ、  
之ヲ一ツ伺ヒタノデアリマス、唯、徒ニ警告ヲ發シタノミデ  
ハナイ、是ニ於テ日本ニ於テハ此問題ヲ外務大臣ハ祕密ニ  
隠シテ居レバナラヌト云フコトハ入テ來ル、支那ノ財政ヲ管  
理スルト云フ事ハドウ云フコトカト云フト、支那ノ財源ニ向  
テ手ヲ著ケルノアル、支那ノ財源ハ何デアルトカ云ヘバ、今  
日ノ所ハ或ハ稅關デアルトカ、或ハ鹽ノ稅デアルトカ、最モ  
重大ナル財源ハ鐵道デアリマス、京漢鐵道、京奉鐵道、津浦  
鐵道、是等ノ鐵道ノ收入ヲ列國が管理スルト云フコトハ、詰  
リ支那ノ最モ財源デアルベキ所ノ鐵道ヲ押ヘ、此鐵道ヲ列

辯ニ對スル清水留二郎君ノ意見

○議長(柏谷義三君) 次ハ米國ノ日本人歸化權ニ關スル件、清水留三郎君

シ、政府ハ何等容喙スペキ餘地ヲ認ムト云フノが其名前  
デゴザイマス、若モ此政府ノ答辯ヲ在留十四万ノ同胞ガ聞  
イタナラバ、如何ニ日本政府ガ米國ニ居ル日本人ニ對シテ  
冷淡デアラ、無慈悲アルト云フコトニ對シ、必ズヤ憤慨サ  
レルコトデアラウト信ジテ疑ハナイノデアリマス、米國ハ輿論  
政治ノ國デアル、日本ノ政府ニシテ眞ニ差別待遇的ナル此  
歸化否認ニ對シテ、此否認ヲ未發ニ防グト云フ一片ノ誠意  
ガアリマスナラバ、何故ニ亞米利加ノ輿論ヲ喚起シ、亞米利  
加ノ國論ニ訴ヘナカツノデアリマスカ、亞米利加ノ歸化法  
ナルモノヲ私共調べテ見マスト、自由ナル白哲人種、ア弗利  
加人及其子孫ノ歸化ヲ許スト云フノ其規定デアリマス、  
而シテ此亞米利加ノ歸化法ヲ歴史的ニ攻究スル場合ニ於  
キマシテハ、千八百八十年ノ前後ニ於キマシテ、米國ニ於テ  
支那人排斥ノ熱ガ盛デアリマシタ、如何ニスレバ此支那人  
ノ徹底的排斥ガ出來ルカト云フ風ノ關係ヨリ、米國ニ於テ  
此歸化法ヲ制定セラレタノデアリマス、其證據ニ白人ニモ  
アラズ黒人ニモアラザル所ノ墨西哥人ヲ、米國ニ於テ歸化セ  
シメタ實例ガアリマスソレハ墨西哥人ハ白人ニモアラズ、黑  
人デモナインデアリマスガ、歸化法制定ノ精神ナルモノハ、唯  
支那人排斥ニ在ルノデアリマス、支那人排斥ニ在ルノデアリ  
マスカラ、法律制定ノ精神ヨリ言テモ、墨西哥人ニ歸化ヲ  
許スノハ何等差支ナイト云ツテ米國ガ盛ニ墨西哥人ノ歸化  
ヲ許シタ實例ガアリマス、又土耳其人ニモ許シタ例ガアル、  
是等米國ニ於キマシテハ、白人黒人ニアラザル者ニモ歸化  
ヲ許シタ實例ガアルノニ、日本人ガ白人ニモアラズ黒人ニモ  
アラズト云フ理由ヲ以テ、歸化ヲ否認スルノハ私共ハ甚ダ不  
當ナル判決ナリト信ジテ疑ハナインデアリマス、政府ハ言フ、  
米國大審院ノ判決デアルカラ是ハ如何トモスルコトガ出來  
ナイ、併シ苟モ米國ノ國情ヲ解シ、在留同胞ノ苦境ヲ思フ  
場合ニ於キマシテハ、私ハ斯ノ如キ答辯ヲスルト云フコトヘ、  
全ク官僚的俗吏ノ根性デアリテ、國ヲ念フノ精神トハ思ハレ  
ナイノデアリマス、第二ニ本員ノ質問致シマシタノハ、日本人  
ノ米國歸化權ニ對シテ、政府ハ如何ニ考慮セラレツ、アルカ  
ト云フ風ノ問題デアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ自  
國民ノ歸化ハ外國ニ對シテ強要スペキモノニアラズ、隨テ  
政府ハ邦人ノ爲メ歸化權ノ付與ヲ米國政府ニ求ムル意思  
ヲ有スルモノニアラズ云々ト云フコトデアリマス、顧ミマスレ  
バ十數年前デゴザイマシタ、私ガマダ米國ニ居リマシタ當時  
學童隔離問題ナルモノガ起リマシタ、其關係上日本人ノ歸  
化權ガ米國ニ於テ盛ニ論セラレマシタ、其時駐米大使ノ青  
木君ハ矢張此答辯ト同ジ風ナコトヲ申シタコトヲ記憶シテ  
居リマス、本員ト雖モ在米邦人悉ク米國ニ歸化スベク歸化

シテ、本國ニ敵對行動ヲ取レト云フノデアリマヌ、唯、米國ニ移住シテ人生天賦ノ權利ト自由トヲ主張セント欲スル者ハ歸化スルガ宜シ、又實業上ニ於テ、或ハ農業上ニ於テ歸化シナイト非常ナル不利不便ヲ來ス者ハ歸化スレバ宜イノデアル、而シテ歸化シテ故國ニ盡ス道ニ於テハ、彼我ノ意思ノ疏通ヲ圖リマシテ、國交上ヲ密ニシ、國際間ニ難局ノ起ル場合ニ於キマシテハ、其中間ニ立テ兩國ノ關係ヲ圓滿ナラシムル所ノ原動力タラシメレバ、宣シイノデアル、彼ノ歐洲ノ戰爭ノ當時ニ於キマシテ、獨逸種デアリマス所ノ米國人、獨逸人、ノ歸化シタ所ノ米國人ガ、如何ニ獨逸ノ爲メ米國ノ爲ニ鬪ツタコト云フ、アノ事實ヲ知レバ明カナノデアリマス、而シテ今日歸化權ガ無イ爲ニ我ガ同胞ナル者ハ、有ユル迫害、有ユル排斥ヲ被テ居ルノデアリマス、故ニ私共ハ自ラ歸化セザルマデモ、歸化シ得シムルダケノ權利ダケハドウシテモ之ヲ保持シナケレバナラナイノデアル、差別待遇ハ今日亞米利加ニ於テ行ハレテ居リマスル、差別待遇ト云フモノ、條項ヲ見マスルト、大部分ハ歸化シ得ラレザル外國人ト云フヤウナ規定ヲ持テ居ルノデアリマス、故ニ私ハ此政府ノ答辯ニ向テ満足スルコトハ出來ナイ、故ニ再質問ヲ致シタノデアリマス、私共ノ致シマシタ再質問ノ要旨ヲ申シ上ダマスルト、米國ニ於キマシテ、白人黒人ニ歸化ヲ許シ、日本人ニ差別待遇ヲ與ヘルト云フコトハ、如何ニ米國ノ當局ニ於キマシテ、ソレハ人種關係デハナイ、差別待遇デハナイ、歸化法ノ解釋ガ之ヲ然ラシムルモナリト辯明シテ居リマスガ、事實ニ於テ明ニ私共ハ日本帝國日本臣民ヲ侮辱スルノ甚シキモノナリト信ジテ疑ハナイノデアリマス、吾々ハ正義人道ヲ口ニシ、博愛平等ヲ唱ヘテ居リナガラ、其實ハ侵略主義、帝國主義ヲ能事トシテ居リマス彼ノ亞米利加ニ向テ、歸化セシメタイトハ思ハナイノデアリマス、併シ世界ノ一等國ヲ以テ自任シテ居ル日本「ヴエルサイユ」ノ會議ニ於テ五大強國ノ一、華盛頓會議ニ於テ三大強國ノ一ト政府ガ已惚レテ居ル所ノ此狀態、此世界ノ一等國トナデ居ル日本ガ、白耳義ヤ和蘭ノ如キ化權ノ否認ト云フモノハ、在留邦人ニ對スル所ノ影響ハ甚大ナルモノデアリマス、帝國ノ移民政策上不利不便ヲ來スルト又莫大ナノデアリマス、最近ニ於キマシテ米國ノ下院移民デアル日本人ニ差別待遇ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ、私ハドウシテモ之ニ就テ我慢スルコトハ出來ナイ、斯ノ如キ差別的ルニア州ニ於テ聯合憲法ノ下ニ當然受クベキ權利アル所

ノ日本兒童ノ市民權ヲ奪ハントスルタ如キ、或ハ更ニ「カリ  
ヲ禁止セントスルガ如キ事、是ハ悉ク日本人ノ歸化權が不  
能トナダ結果ト言ハナケレバナラヌノアリマス、過去十五  
年ノ間、加州議會ノ年中行事デアル所ノ排日案、最近ノ現  
象デ見マスルト在米日本人ニ對シテハ壓迫ヨリ寧ロ追放  
ニ進ンデ、漸次惡化ノ傾向ヲ示シテ居ルノアリマス、之ヲ  
歴史的ニ觀察シマスルト、彼ノ學童隔離問題ニ其端ヲ發シ  
タ、日本人ノ子供ハ亞米利加ニ於テ教育スルコトハ出來ナ  
イト言々ク學童隔離問題、其後ニ於テ起シタ問題ハ轉航禁  
止、日本人ガ亞米利加ニ轉航スルコトハ許サナイト言ダ所  
ノ轉航ノ禁止、次ニハ日本人ノ土地所有ノ禁止デアル、更  
ニ渡米者ノ制限デアル、紳士協定ノ下ニ於テ「ゼンツルマン、  
アリーメント」ノ下ニ於テ、所謂更ニ寫眞結婚ノ嚴禁、最近  
ニ於テハ農業者ノ借地權ノ剝奪トナダ排日案ナシテ居リ  
マス、最近ニ於キマシテハ、日本人兒童ノ國語補助教育ノ  
全廢ヲシナケレバナラスト云フコトヲ主張シ、又日本漁業  
者ノ撲滅ヲ國ラントシテ居ルノアリマス、日本人漁業者  
ノ漁撈ヲ禁ズ、違犯者ハ規定ノ州法ニ依リテ處罰ス  
ト云フノガ、今制定セントシテ居リマス所ノ日本人漁業權ノ  
禁止法案ノ內容デアリマス、八年前ニ於キマシテ華盛頓州  
ニ於テハ日本人ノ漁業權ハ禁止セラレタ、併シ華盛頓ニ於  
ケル日本人ノ漁業者ハ極ク少數ナ者デアリマス、今日「カリ  
フォルニア」州ニ於テ、日本人デ「カリフォルニア」州ノ漁業ニ  
從事シテ居ル者ハ約六千人アリマス、此六千人ノ而モ其  
爲ニ投ジテ居リマスル費用ハ數百万圓ニ上テ居ルノデアル、  
六千人ノ生命トモ云フ此漁業權ノ總テヲ剝奪セントシテ、  
ス更ニ亞米利加ノ下院ニ於テ最近可決シタ排日法案、本  
日ノ新聞ヲ見マスルト、或ハ亞米利加ノ下院ニ於テハ之ヲ  
握リ潰スカモ知レヌト云フコトガアリマシタガ、免ニ角下院  
ニ於テ可決致シマシタ所ノ移民委員法案中ノ記事ヲ見マ  
ス、之ニ對シマシテハ亞米利加側ノ答辯ニ依ルト、是ハ只今

マノ存立シテ居ル紳士協約ヲ具體化シタ所謂法律トシタニ過ギナイト云フノアリマス、日本政府ガ任意ニ移民ヲ禁止致シマスル紳士協約ト、法律ヲ以テ條約ヲ無視シテ差別的待遇ヲ與ヘテ、サウシテ移民ヲ禁止セントスル此法案トハ雲泥ノ相違ト言ハナケレバナラヌノアル、而シテ日本ノ移民ガ、歐洲ノ移民ヨリハ善良ナル者デアルト云フコトハ、今日一般ノ批評デアリマス、然ルニ此日本ノ移民ニ對シテ、歐洲移民トノ特別ノ待遇ヲシ、差別待遇ヲスルト云フコトハ、實ニ國家ノ體面上ヨリモ、又國ノ名譽ノ上ヨリモ、又吾々同胞ノ困難ノ状態ヨリモ、私ハ許スベカラザル問題デアラウト思フノアリマス、是ガ私ノ再質問ノ第一ノ大體デアリマス、第二ニ於テ私ノ指摘致シマシタノハ、國籍法上ニ於テ日本ノ血統主義ヲ採用シ、米國ハ出生地主義ヲ採用シテ居ルノデアリマス、所謂日本ノ國籍法ニ依ルト、父日本人ナルトキハ其子ヲ日本人トスル、是ニ於テカ國籍ノ積極的衝突ニ重國籍ト云フノガ起ルノデアリマス、而シテ今日亞米利加ニ生レハ、其子ヲ日本人トスルト云フノガ、日本ノ國籍法ノ規定デアリマス、亞米利加ノ國籍法ニ依レバ、亞米利加ニ生レタ者ハデアリ、一面ニ於テハ亞米利加人デアリマス、而シテ今日日本ガ——日本人ガ亞米利加ニ於テ歸化權ガ否認セラレテ以來、日本人ノ子孫ニシテ、亞米利加人タリ得ラル、者ハ亞米利加ニ生レタル日本人ノ子供アルノミデアリマス、然ルニ今日ノ國籍法ニ依リテ見マスルト、滿十七歳以下ノ者ニ對シマシテハ、其父兄ナリ保證人ナリガ要求スルト、日本ノ國籍ヲ離脱スルコトガ出來ルノデアリマス、一人前ニナリ十七歳以上ニナルト云フト、如何ナル條件ガアリテモ、此國籍ヲ離脱スルコトハ出來ナイ、頗ル矛盾ナル規定デアリマス、其結果亞米利加デ今日排日論者ガ唱ヘテ居リマスルノハ、二重國籍ニ對シテハ市民權ヲ剝奪シナケレバナラヌト云フコトヲ盛ニ論ジテ居ルノデアリマス、又徵兵令ノ問題ニ付キマシテ、海外ニ發展シテ、或ハ日本ニ歸ラテ嫁ヲ貰フトカ、或ハ事業ノ關係デ歸ラウト云フ場合ニ於テモ、二箇月以内ニ歸ノ答辯ノ要領ハ吾々ニ満足ヲ與フルコトガ出來ナカッタノデラナケレバ再渡航ガ出來ナイト云フ風ナ狀態デアリマス、此所謂徵兵令ノ關係、是等ノ關係ニ付テ政府ハドウニ云フ風ニ考慮セラレテ居ルカト云フコトヲ聞キマシタ所ガ、矢張政府ル狀態ニ陥ダト云フコトハ、日米條約ノ缺陷カラ生ジテ居ルノデアリマス、現在ノ日米通商航海條約ナルモノハ、明治

第十七條ニ依リマスルト、千九百十一年七月十七日ヨリ實施シ、滿十二箇年間ハ有效ナル旨ガ規定サレテ居ルノデアリマス、而シテ本年ノ七月ニ其滿期ナル、而シテ此條約ハ桂内閣ノ當時ニ於キマシテ、小村外務大臣並ニ現在ノ外務大臣タル内田君カ、亞米利加ノ大使トシテ締結セラレク所ノ條約ニアリマス、此條約ニ付テハ會事衆議院ノ速記錄ヲ私共ガ見マスルト云フト、其當時ノ國民黨ノ代議士ニアリマシタ殿部綾雄君ヨリ詳細ニ此論及ガアズ、其一節ニ依リマスルト、米國ト歐米諸強國トノ條約ハ、皆農業其他財産權ニ關スル規定ガアルカ、日本通商條約ニ此重要ナル規定ヲ缺ケルハ何事ナアル、今日ノ此日米條約ニ於テ、農業上或ハ工業上、其他肝要ナル所ノ條項ヲ缺イテ居ルト云フコトハ、是ハ日米條約ノ缺陷ニアリマス、此爲ニ日本人ハ亞米利加ノ土地ヲ所有スルコトモ出來ナケレバ、日本人ノ歸化ガ否認サレテモ據口ナイ、故ニ日本ニ於テ此日米通商條約ヲ改訂シナケレバナラズ、此改訂ハ本年ノ七月十六日アル、併シ六箇月以前ニ稟告スルナラバ、其以後ニ於テモ出來ルノデアリマスカラ、私共ハ日本人ノ問題ヲ根本的ニ解決スル上ニ於テ、日米通商條約ヲ改訂スルコトガ最モ必要アル、之ニ就キマシテハ嘗て對米同志會ナルモノガ一月十三日ニ決議シテ居リマス、ソレハ「來ル七月改訂スヘキ日米通商條約ノ條文中ニ明白ニ商業工業及農業上ニ關スル一切ノ權利ヲ歐洲諸國民同様ニ確保セシムルコトヲ期ス」ト云フノ決議デアリマス、私共之ヲ希望シテ居ルノデアリマス、日本人ヲ此亞米利加ニ於ケル差別待遇カラ救ヒ、歸化權ヲ確保シ、其他一切ノ權利ヲ歐洲人同様ニ取扱ハシムルニ於テ、唯、此日米通商條約ヲ改訂スル一事アルノミニアリマス、吾々ハ條約ニ依リマシテ、歸化權其他ヲ得ナケレバナラヌノデアル、亞米利加ノ憲法ニ依リマスト、條約ハ國ノ最高法律デアル、若モ州ノ法律其他ノ法律ト抵觸スル場合ニ於テハ、條約ニ依テ規定セラレタル權利ハ一番最高ノ法律デアリマスカラ、此條約ヲ締結スルコトハ所謂凡テノ問題ヲ解決スル上ニ必要條件デアルト信ジマス、「カリヲオルニア」其他ニ於テ有ユル日本人排斥ノ問題ヲ今後惹起セシメナイヤウニスルニハ、此日本人ガ歐洲人同様最惠國條款ノ下ニ權利ヲ確保スルナラバ、少シモ心配ハ無イノデアリマス、故ニ吾々ハ其目的ヲ貫徹スル爲ニ飽迄モ奮闘シナケレバナラヌト思フノデアリマス、終リニ臨ニテ私ハ政府ニ警告シタク、政府ガ今日全ク恐米病ニ襲ハレテ居ルノデアル、政府ハ亞米利加英吉利ト云ヘバ、亞米利加ハ最モ恐口

主張スペキ事ハ正々堂々ト之ヲ主張シ、而シテ一步ヲモ譲ラザル決心ヲ以テヤノテ戴キタインデアル、一面ニ於テハ因ツテ居ル我ガ十數万ノ同胞ヲ救ヒ、而ニ於テハ帝國ノ國威ヲ發揚シ、國益ヲ増進スペク、政府ハ此條約ノ改訂三際シテハ飽迄モ硬強ナル態度ニ出テラレンコトヲ政府ニ對シ警告シテ置ク次第アリマス

西伯利駐兵ニ關スル再質問ノ答辯ニ

對スル野村嘉六君ノ意見

聖木嘉六君登壇  
嘉六君 私ノ質問ハ西伯利ノ駐兵ニ關スル責任

云フコトハ、是ハ日本ノ傳統ノ範疇ニ万リマ不此爲ニ日本ノアキ米制限ノ仕地ヲ所有スルコトモ出來ナケレバ、日本人

ノ歸化ガ否認サレテモ據口ナイ、故ニ日本ニ於テ此日米通商條約ヲ改訂シナケレバナラズ、此改訂ハ本年ノ七月十六日デアル、併シ六箇月以前ニ豫告スルナラバ、其以後ニ於テモ出來ルノデアリマスカラ、私共ハ日本人ノ問題ヲ根本的ニ解決スル上ニ於テ、日米通商條約ヲ改訂スルコトガ最モ必要デアル、之ニ就キマシテハ當テ對米同志會ナルモノガ一

月十三日ニ決議シテ居リマス、ソレハ「來ル七月改訂スヘキ  
日米通商條約ノ條文中ニ明白ニ商業工業及農業上ニ關  
スル一切ノ權利ヲ歐洲諸國民同様ニ確保セシムルコトヲ期  
ス」ト云フノ決議デアリマス、私共之ヲ希望シテ居ルノデアリ  
マス、日本人ヲ此亞米利加ニ於ケル差別待遇カラ救ヒ、歸  
化權ヲ確保シ、其他一切ノ權利ヲ歐洲人同様ニ取扱ハシ  
ムルニ於テ、唯、此日米通商條約ヲ改訂スル一事アルノミ  
デアリマス、吾々ハ條約ニ依リマシテ、歸化權其他ヲ得ナケ

ト云フコトハ想見スルニ難カラヌノアリマス、更ニ中略、第  
二段トシテ「合衆國政府モ亦同ク其危急ヲ認メ帝國政府  
ニ提議シテ先ツ速ニ救援ノ軍隊ヲ派遣セムコトヲ以テセリ」  
是ニ於テ帝國政府ハ合衆國政府ノ提議ニ應シテ其友好ニ  
酬ヒ且今次ノ派兵三於テ聯合列強ニ對シ歩武ヲ齊フシテ  
履信ノ實ヲ舉クル爲速ニ軍旅ヲ整備シ先ツ之ヲ浦潮ニ發  
遣セムトス」之ニ依リマスト云フト、西伯利出兵ノ目的ハ亞  
米利加ダ先ツ提唱シテ、日本ガ之ニ聽イテ、亞米利加ト共  
ニ之ヲヤツテサウシテ、歩武ヲ齊ウシテ履信ノ實ヲ舉グルト云  
フ目的デ、此西伯利出兵ガ行ハレタ上云フコトハ明瞭デアル  
ノデアリマス、更ニ中略ト致シマシテ大變長イ文章デアリマス  
スカラ、要點ダケ申シマスガ、「其國內改革ニ干渉セザルノ既

定主義ヲ聲明スルト共ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ於テハ政治的又ハ軍事的ニ其王權ヲ侵害スルコトナク速ニ撤兵スヘキコトヲ茲ニ宣言ス』詰リ亞米利加ノ提議ニ基イテ出兵シ、而シテ『チエック』種族救援が其目的ヲ達スル上ニ於テハ、速ニ撤兵スベキコトヲ茲ニ宣言スト云ノデアリマスカラ、『チエック』種族ヲ救援シタ以上ハ、西伯利カラ撤兵スルト云ノガ是カ宣言デアルノデアリマス、思フニ此宣言ハ國民ニ對スル宣言デアルト同時ニ、各國モ此意思ヲ承シタモノナリト私ハ思フノデアリマス、而シテ此宣言ノ責任者トシテノ當時ノ總理大臣寺内伯、後藤新平氏、現總理大臣タル當時ノ海軍大臣加藤友三郎氏、何レモ責任ヲ負ウテ此宣言ヲ天下ニ公表サレタノデアル、否世界ニ公表サレタノデアル、所デ此「チエック」種族ヲ救援スル目的ガ達シマシテ、大正九年ノ二月ニ於キマシテハ、既ニ皆此目的ヲ達成シタ以上ハ、亞米利加ノ如キハ二月ノ十日カラ一週間内ニ駐兵シテ居タノヲ撤兵スルト云フコトヲ、各國ニ宣言シタノデアリマス、成程御承知ノ通リニ、此天下ニ對スル宣言カラ見マスルト云フト、所期ノ目的ヲ達成スルニ於テハ、政治的又軍事的ニ其主權ヲ侵害スルコトナク速ニ撤兵スベキコトヲ茲ニ宣言スト此處ニアルノデアリマス、所期ノ目的ヲ達成シタ以上ハ速ニ撤兵スルノカ理ノ當然ナリト信ズルノデアル、亞米利加ニ於キマシテハ、大正九年ノ二月十日ヨリ二月十七日迄ノ間ニ於テ、既ニ亞米利加ノ兵隊ヲ撤退シタノデアル、天下ニ對スル宣言ヲ重ンジタナラバ、日本モ當然其時ニ撤兵スベキダ、私ハ義務ト信ズルノデアリマス、又日本ノ信用ヲ高ムル所以ナリト私ハ思フノデアリマス、所ガ日本ダケハ撤兵セズニ、却テ二月ノ半頃カラ越後ノ高田師團ニ對シテ約半師團モ出兵ヲ命ジタノデアル、私ハ此點ニ對シテハ大正七年八月二日ノ宣言ヲ裏切ルモノナリト思フノデアル、併シ政府ノ政策ハ免モ角モ大正九年ノ二月中旬カラ、更ニ越後ノ高田師團ニ對シテ西伯利ニ出兵スベキ命令ヲ下シタノデアル、御承知ノ通リニ日獨戰争ハ大正三年八月二十三日ニ宣戰ノ公布ガアツクノデアル、サウシア大正九年ノ一月十日ニ和平ノ詔勅ガ出タノデアル、所ガ大正九年ノ二月ノ末ニ至テ高田師團ニ出兵命令ヲ出シタノハ如何ナル一體理屈アルカ、憲法ノ根據ガアルノデアルカ、私ヲシテ言ハシタナラバ、憲法第十三條ニ「天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス」ト云フコトが規定シテアルノデアル、所ガ大正九年ノ二月後既ニ日獨戰争ノ平和詔勅ノ出タ後ニ、尙ホ高田師團ニ出兵ヲ命ジタト云フコトハ、正シク私ハ憲法違反ナリト思フノデアリマス、(ヒヤー)去ナガラ此點ニ對シテハ、是ハ法律上ノ見解デアルカラシテ強テ申シマセヌガ免

モ角モ所期ノ目的ヲ達シテ居ル以上ニ出兵シタト云フコトハ、私ハ曰本帝國トシテハ其信ヲ履ムモノデナイト思ノノアル、併シ議論ト實際トハ動モスルト相違スル點ガアルノアリマスカラシテ、サレバ實際其當時ニ於テ必要デアタカ、出兵尙ホ必要ナルカ、更ニ實際論ニ付テ申シダインデアル、吾々ハ此所期ノ目的ヲ達シタ以上ハ撤兵スルノガ當然デアルト思フ、憲政會亦始終此意見ニ一致シテ居ダノデアル、ソレナラバソレ以外ニ所期ノ目的ヲ達シタ以上ハ撤兵スルト云フ議論ガ無カッタカト申シマスレバ、大正七年八月ノ出兵當時ニ、軍隊ノ派遣ハ勿論當時之ニ伴フ行政上ノ關係ニ於テ、加藤恒忠君カ露國ノ大使ト爲テ赴任サレ、又前議會ニ選出サレシテ居リマシタ所ノ政友會ノ代議士頭本元貞君ガ、軍司令部公報局長トシテ矢張同時ニ赴任サレタノデアリマス、私ハ餘り當時ノ憲政會ノ議論ヲ支持スルハ如何ト思ヒマスカラシテ、當時ノ狀況ヲ即チ憲政會ノヲ除キマシテ政府ノ職名ヲ帶ビテ武官以外ニ派遣サレタル所ノ加藤恒忠大使並ニ頭本元貞公報局長ノ意見ヲ此處ニ一言申上ゲルノハ、論據ヲ確ムル上ニ必要ナリト斯ウ信ズルノデアリマス、大正八年ノ十二月ニ於テ即チ亞米利加ガ撤兵ノ期が熱シタ其時ニ、頭本公報局長、即チ情報ヲ偵察スル所ノ當時局長ノ天下ニ公表シタ意見ノ一節ニ依リマスルト、斯ウ云フ事ヲ申シテ居ルノデアル、然ラバ此際如何ナル政策ヲ執ルベキヤ上云フニ、唯、思切テ撤兵スルノ外ハナイ、外間ニ現シタル消息ニ依レバ、有力者間ニ當分現狀維持ノ姑息策ヲ以テ當面ノオ茶ヲ濁サントスル者モアルヤウニ見エルガ、是ハ最モ危險ナ愚策デアルト云フコトヲ斷言シテ憚ラズ、現狀維持ト云フコトハ多クノ場合無策ノ意味デアル、殊ニ今日ノ場合無策程危險ナ事ハナイ、西伯利ノ状態ハ最早現狀維持ヲ許ス餘地ハ無イノデアル、此際若シ現狀維持ノ執ルニ於テハ其結果ハ恐ラク「レーニン」政府軍ト對峙若クハ對戰スルノ已ムナキニ至ルデアラウ——吾々ハ憲政會員が言フノナラバ別ト致シマシテ、當時政府ノ與黨アツタ、政府ノ俸給ヲ費シテ、サウシテ而モ重大ナル任務ヲ帶ビテ居タ政支會代議士頭本元貞君ガ、公報局長トシテ西伯利ノ當時ノ状態ヲ視察シタ結果、吾々ニ此意見ヲ公表シタノデアリマス、シテ見レバ吾々ハ是ハ公平ナリト見ナケレバナラヌノデアル、即チ「今日ノ場合無策ホド危険ナル事ハナイ、西伯利ノ状態ハ最早現狀維持ヲ許ス餘地ハ無イノデアル、此際若モ現狀維持ノ態度ヲ執ルニ於テハ其結果ハ恐ラクハ「レーニン」政府軍ト對峙若クハ對戰スルノ已ムナキニ至ルデアラウ」ト吾々ハ頭本君ガ矢張其地位ニ鑑ミラテ、大局カラ認メラレテ居ル意見ヲ發表サレタト云フコトハ至當ナリト信ズル

ノデアリマス、併シ頭本君ノミカト申スト、當時矢張遣露大  
使トシテ約一年間汽車ノ中其他ニ於テ其任務ヲ果サレ  
タ加藤恒忠大使ノ言ニ依リマシテモ、矢張同様ノ趣旨ノ意  
味ヲ述ベラレテ居ルノデアル、此際ハ撤兵スル外途ハナイト  
云フコトヲ述ベ居ラレルノデアル、私ハ政黨ノ關係ニ於テ  
ハ憲政會之ヲ唱へ、在朝黨ノ關係ニ於テハ時ノ其局ニ當ラテ  
居ラレル此兩君が唱へテ居ラレルト云フコトヲ今述ベテ居ル  
ノデアル、更ニ露國ノ内情ニ至ラテハドウデアルカト申シマス  
ルト、私ハ其當時露國ハ參テ居リマセヌカラ様子ハ分リマ  
セヌ、唯、是ハ通報ニ依テ知ル外ハ眞偽ノ程ハ分リマセヌ  
ガ、併シ私ノ得タ情報ニ依レバ、浦潮ニ於テ浦潮市會ニ於テ  
ハ須ク撤兵ヲシテ貴ヒタ、露國ハ露國ヲ以テ自ラ治ムルノ  
デ、決シテ他ノ國ノ厄介ニハナラヌト云フ附帶決議ヲシテ居  
ルト云フ情報ヲ得テ居ルノデアル、是ハ露國側カラ見ターッ  
ノ情報アル、併シ是ハ本當デアルカ如何カト云フコトハ、私  
ハ此處ア保護ハ出來マセヌ、更ニ又東西伯利ニ於ケル東清  
鐵道ノ從業員ノ職業同盟會ニ於テハ、日本人ガ在留スル  
以上ハ、憤懣ト怨恨ト惹起スノデアル、ソレデアルカラ須ク  
撤兵シテ貴ヒタイト云フ決議ヲシタ云フコトヲ、其當時情  
報ニ接シテ居ルノデアル、併シ是モドノ程度ニ在ルカト云フコ  
トハ、身自ラ親シク其局ニ當テ居ナインアルカラ、責任ヲ  
以テ言フコトハ出來マセヌガ、所謂時ノ電報ニ依テ私ノ承  
知シタ範圍ニ於テ申上ダルノデアルノデアリマス、内地ニ於  
キマシテハ、吾々一派、在朝黨トシテハ時ノ政府ニ責任ヲ持ッ  
テ立ツ頭本君並ニ加藤大使又當時其地ニ於ケル所謂露  
西亞ノ是等ノ人民ガ、何レモ撤兵ヲ必要ナリト主張シテ居  
ルト云フコトヲ、是ハ大體のニ申上ダテ、サウシテ其時ニ駐  
兵撤兵ノ相較ル、大議論ガアグト云フコトヲ申上ダテ置  
キタイ、斯ク申上ダルト云フコトハ、矢張議論ノ根據ヲ確ム  
ル必要上デアリマシテ、吾々ハ所期ノ目的ヲ達シタ以上ハ  
撤兵スペシト、是ガ政策上ニ於テハ意見デアル、駐兵スペシ  
ト云フノハ時ノ政府ノ意見デアル、此政策上ノ可否カ孰レ  
ニ在ルカト、此判断ニ基イテ更ニ責任問題ガ茲ニ惹起サレ  
ルノデアリマスゾレデアリマスカラ已ムヲ得ヌ、事面倒デアリ  
マスケレドモ、手續上ノ問題ヲ申上ダケレバ、ナラヌノデア  
ル、併テ頭本君ガ政友會ノ代議士トシテ、海外ノ事情ニ通  
じタ此人ガ公報局長ノ責任トシテ、今申上ダマス通り若シ  
此儘ニ置イタナラバ、危險は程甚シキ事ハナイト云フコトヲ、  
大正八年ノ末吾々ニ報知シタ所ニアル、所ガ大正九年ノ御  
承知ノ通り四月二十五日カラ二十七日ニ及ブテ起ダ事實  
ハ如何デアリマスカ「バルチサン」ノ爲ニ我が同胞六百人カ  
無残ニモ虐殺サレタ事實ガアルノデアリマス、所謂頭本君ノ

此儘ニ置ク程危險ナ事ハナイ、是レ位無策ノ事ハナイ、須ク撤兵スベシト云フ大正八年十二月ノ意見ヲ採用シタナラバ、此慘事ヘ起テナカッタデアラウト思フ、憲政會ノ議ニ聽クニアラズ、政友會ノ前代議士頭本君ノ言ニ聽キナガラ、不幸ニシテ此慘事ハ起テタノデアリマス、御承知ノ通り頭本君ガ意見ヲ發表シテカラ五箇月目ニ此事實ガ起タノデアル、六百人ト云フ人々免モ角モ他國ハ率知ラス、日本トシテハ恐ラク虐殺サレ、悲慘ナ最後ヲ通ダタト云フコトハ、曾テ私ハ歴史ニ無イ事ト思フ、而シテ其虐殺ノ模様ニ至リマシテハ、私ハ此處ニ言フヲ實ハ憚ルノデアル、免モ角善良ナル軍人並ニ非軍人合セテ六百人カ虐殺サレタ、ソレ自體ハ何ノ爲カト云ヘバ、即チ駐兵ノ結果ナリト私ハ茲ニ斷言シタノデアル（拍手）隨テ其行途ニ付テ一二申シテ置カナケレバナラヌ、駐兵スル理由ニハ幾ツモアリマセウガ、其時ニハ免モ角モ政府ニ於テハ「オムスク」政府ヲ非常ニ重ク視タノデアル、西伯利ニ於ケル「オムスク」政府ニ賴タナラバ所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルト思タノデアル、「オムスク」政府ニカク置イタト云フソレ自體ガ政策上ノ誤リデアル、私ハ第一トシテ申上げタインハ、今申上げマシタ通り嘗テ日本ノ國トシテハ絶後トハ思ヒマセヌカ、空前ノ虐殺事件ヲ惹起シタノハ全ク駐兵ノ結果ナリト云フコトハ、茲ニ斷言ヲシテ置クノデアル（ヒヤー）更ニ有形上ノ損害ト致シマシテハ、約六億万圓ノ經費ガ是ガ爲ニ費消サレタノデアリマス、或ハ六億万圓ニナルカ、七億万圓ニナルカ五億幾ラニナルカ此ノ精算ハ私ハ分リマセヌガ、約六億万圓トシテ差支ナカラウカト思フ、此金ヲ萬一生産事業ニ使タナラバ如何デアリマセウ、義務教育費國庫支辨デ御互ニヤカマシク議論シテ居リマスケレドモ、一年ニ四千万圓乃至五千万圓ノ程度ガ議論ノ焦點ナルアル、萬一六億万圓ノ金ガアシナラバ、相當ノ利子ニ廻シタナラバ未來永劫其利子ダケデモ國民教育ヲ十分ニ爲スコトガ私ハ出來ルデアラウト思フノデアル（ヒヤ）又近時地方並ニ中央ノ財政ガ非常ニ困難シテ居リ、其生活ニ安ンズル結果ニ至ルナアラウト私ハ斯ウ思フノデアル、私ハ是ハ有形上ニ議論モアリマスガ、免モ角之ヲ地租或ハ營業稅ニ廻シタナラバ、一年ニ約五千万圓乃至六千万圓ハ利子ダケデモ生ズル、是ダケモ減税ニ充テ、モ我ガ國民ハ頗ル万圓ト云フモノハ全ク水泡ニ歸シタノデアル、水泡ニ歸シタノミナラバ、マダ宜シイガ、是ガ爲ニ大ナル後患ヲ貽シテ居ルト

云フ事實ガアルノデアル、此點ニ對シテハ後ニ申上ダマスガ、  
整理ヲスルニ必ズユトリガ出來、又緩和スルコトガ出來ルデ  
アラウト云フコトヲ斷言シテ憚フヌノデアル、ソレト同時ニ國  
民ハ必ず満足スルモノアルト云フコトモ、私ハ茲ニ申シテ  
不都合ハ無イト信スルノデアリマス、御承知ノ通りニ苟モ國  
ヲ成ス以上ハ、其國防上他ノ國ト戰ヲスルト云フノモ、平和  
維持ノ必要上已ムヲ得ヌノデアル、是ハモウ何レノ國ト雖モ  
已ムヲ得ナ、平和ヲ維持スル必要上、自衛上、他ノ國ト戰  
通リニ日清戰争ハ我が日本國ヲ世界ニ紹介シタ第一ノ階  
梯デアタノデアル、彼ノ世界ニ日本ヲ紹介スル第一ノ階梯、  
而シテ廣大ナル支那ニ對スル戰勝ノ結果、如何ナル費用ガ  
併ナグラ漸ク二億一千五百万圓デアルノデアル、御承知ノ  
コトハ已ムヲ得ヌノデアル、吾ガ日本ヲ世界ニ紹介スルニ止ラズシ  
ル、其時ノ經費ハ幾ラデアルカ、成程物價モ當時ハ安カッタ、  
併ナグラ漸ク二億一千五百万圓デアルノデアル、御承知ノ  
通リニ日清戰争ハ我が日本國ヲ世界ニ紹介シタ第一ノ階  
梯デアタノデアル、彼ノ世界ニ日本ヲ紹介スル第一ノ階梯、  
而シテ廣大ナル支那ニ對スル戰勝ノ結果、如何ナル費用ガ  
掛クタカト申シマスレバ、僅ニ二億一千五百万圓デアルノデ  
アル、又日露戰役ハ更ニ今度ハ世界ニ紹介スルニ止ラズシ  
テ、世界的ニ地歩ヲ占ムル必要上、否東洋平和ノ爲ニ戰タ日清戰争、其時ノ費用ニ  
對シマスルト云フト、今回ノ無益ノ六億万圓ノ費用ハ何タ  
戦爭デアルガ、其時ノ費用ハ幾ラデアルカト云フト、十三億  
五千六百万圓デアルノデアル、吾ガ日本ヲ世界ニ紹介スル  
必要上、否東洋平和ノ爲ニ戰タ日清戰争、其時ノ費用ニ  
對シマスルト云フト、今回ノ無益ノ六億万圓ノ費用ハ何タ  
戦争デアルガ、其時ノ費用ハ幾ラデアルカト云フト、十三億  
五千六百万圓デアルノデアル、吾ガ日本ヲ世界ニ紹介スル  
國家ノ信用ヲ増スコトガ出來タデアリマセウカ、是ガ爲ニ却  
テ我國ノ國威ヲ毀損シタ云フ事實ハアルカモ知レヌケレ  
ドモ、一トシテ國威ヲ發揚シタ云フ事實ハ無イノデアル、更  
ニ述ベマスガ多大ナル費用ヲ使テ、サウシテ成功セヌノミナ  
ラズ、却テソレガ所謂古來傳ハシテ居ル所ノ日本ノ武ヲ驕ス  
ト云フ結果ヲ來シタノデアル、又は財產上ノ關係デアリマ  
スガ、更ニ人命上ノ關係カラ申上ダマスルト云フト、詳シイ  
事ハ分リマセスガ、大略約三千人ト見テ宜シイデアラウト思  
フ、三千人カラノ死傷者ヲ出シタノデアル、戰死者ヲ出シタ  
ノデアル、公明正大ナル戰ノ下ニ於テナラバ、我が日本國六  
千万人舉ゲテ戰地ニ臨ミ、計死シテモ敢テ後悔セヌ、否敢テ  
ソレヲ意トセス所ノ日本ノ國民性デアル、併ナグラ  
○議長(柏谷義三君) 一寸御注意致シマスルガ、マダ後ニ  
意見ノ陳述ガ澤山アリマスクラ……

西伯利駐兵ニ關スル再質問ノ答辯ニ關  
事速記錄第十七號

万人カラノ人ダ、詰リ戰死或ハ病死——其他ノ事ニ病歿シ  
タト云フニ至ニテハ、私ハ實ニ遺憾ニ思フノデアル(ヒヤー)  
是ガ第三ノ理由デアル、併シ六億ノ金ヲ使ヒ、戰死三千人、  
病傷者三千ノ約六千ノ人ガ出來タガ、併シ是ガ爲ニ他ニ利  
益ガアツカ、斯ウ申シマスト御承知ノ通りニ、今日各國ヲ  
成シタル程度ニ於テ、却テ是ハ不利益ヲ來シテ居ルノデアル、  
何故ナラバトスウ申シマスト、是ガ爲ニ英吉利人ダトカ、或  
ハ亞米利加人ガ猜疑心ヲ懷イタト云フコトハ是ハ爭ヘ、ナイ  
事實デアル、日本動モスルト侵略主義、ナナイカ、吾々ハ當  
カセタト云フコトハ事實デアルノデアル(ヒヤー)此事ハ加  
藤友三郎總理大臣モ貴族院ニ於テ述ベテ居ラレルノデアリ  
テ更ニ所期ノ目的ヲ達シテ居ルニ拘ラズ、尙ホ出兵フルノハ  
或ハ西伯利ヲ占領スル意思デナナイカト云フ懼懼ノ念ヲ懷  
カセタト云フコトハ事實デアルノデアル(ヒヤー)此事ハ加  
藤友三郎總理大臣モ貴族院ニ於テ述ベテ居ラレルノデアリ  
マス、是ガ爲ニ誤解ガアツ、此誤解ヲ解ク方法、ダケハ盡シタ  
ト言ウテ居ラレルノデアルカラシテ、其誤解タルヤ即チ侵略  
主義、其他ノ關係ニ於テ國際上穩カナラザル誤解ニアツト  
云フコトダケハ私ハ斷言スルニ憚ラヌノデアル、又露國人カ  
ラ見マスルト、色々自分ノ兄弟親子ガ討伐サレテ居ルノデア  
ル、是ハ果シテ好イ心持ガスルデアリマセウカ、自分ノ親子ガ  
殺サレ兄弟モ殺サレタ時ニハ、如何ナル人ト雖モ其怨ハ骨  
髓ニ徹スルト云フノハ人情ノ當然デアルノデアル、露國人ニ  
對シテハ救フベカラザル怨ヲ懷ガセ、サウシテ亞米利加ナリ、  
英吉利ニ對シテ所謂疑ヲ懷カシメタト云フコトハ、果シテ國  
際的ニ適當デアルカドウデアルカ、是ハ即チ此出兵ノ結果  
此駐兵ノ結果ノ失態ナリト斯ウ信ズルノデアル、更ニ申シ  
マスルト云フト、此出兵此駐兵ノ結果ハ御承知ノ通りニ、武  
器ノ紛失ト云フ問題ガ之ニ伴ウタノデアル、大正十一年ノ  
十月十六日内閣發表ノ公表ヲ見マスルト、免モ角貨車十  
九輛ニ積ムダケノ小銃、火薬、其他ノ所謂軍器軍械ガ紛失  
サレタト云フコトハ辯解ヲ上ニ辯解ヲ加ヘテ、極ク節約ノ程  
度ニ於テ是ダケハ已ムヲ得ズ公言シテ居ルノデアル、貨車  
十九輛ノ嶮敷ハ私ニ分リマセヌカ、免モ角貨車ノ如キ多大ノ  
武器ヲ紛失スルト云フコトハ、果シテ帝國政府ノ信用如何  
ト云フコトヲ私ハ思フノデアル、況ヤ其品物ハドウデアルカ  
斯ウ申シマスルト「エック」ヨリ預カッタル品物デアル、斯ウ  
云フノデアル、他所カラ預カッタ品物否個人カラ別トシ  
マシテ、苟モ一ソノ獨立國ヲ成シテ居ル其國カラ預カッタ品  
物ヲ——個人デ預カッタニアラズシテ、帝國政府ガ預カルナラ  
來ルデアリマセウカ(ヒヤー)其價格ハ約八十六萬圓ト云  
フコトデアルノデアル、由來個人トシマシテモ、人カラ物ヲ預

カタナラバ十分ニ管理方法ヲスルノガ當然デアルノデアル、所ガ政府ガ其管理ヲ怠リトナカ或ハ故意カ、是ハ他ノ別問題トシマシテ、免モ角モ國ト國トニ預カタ其品物ヲ紛失サシテ、ソレア帝國政府ノ信用ガ維持サレルト云フ考ニアラウカ、由來日本ノ國ハ信用ヲ以テ立テ居ルノデアル、私ハ此點ニ對シテ此駐兵ノ結果、日本ハ嘗テ例ノ無イ大ナル不信用ヲ來シタモノナルト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアル（拍手）況ヤ紛失シタ本人ガ問題ニナッタ—原少佐ガ問題ニナッタノデアルガ、儘テ其裁判ハ御承知ノ通ニ未ダ判決ヲ言渡サヌ前ニ、判決文ガ社會ニ公表サレテ居ルヤウナ次第ナル、十九輛ト云フ大ナル貨物ヲ紛失セリヤウナル此無責任ナ當局ニアッタナレバ、隨テ裁判モ前以テ—公表シナイ前以テ洩ラシタリ、裁判ガ裁判ナラザル威信ヲ失シノモ、是モ當然ナリト私ハ思フノデアル（拍手）私ハ是ガ矢張駐兵ノ一ノ結果ト思フノデアル、駐兵シタナレバコソ此所謂不始末ガ出來タノデアル、所謂所期ノ目的ヲ達成シテ直ニ撤兵シタナラバ、斷ジテ斯ウ云フ不結果ヲ來サヌノデアルト云フコトヲ私ハ言フノデアル（拍手）更ニ第六ト致シマシテハ、所謂此樺太ノ問題デアル、是ハ何ノ爲ニ一起ゾタスウ申シマスルノニ、要スルニ尼港占領ノ保障ノ爲ニ新高艦ガ彼處ヲ警戒シア居クタスウ思フ、彼ノ新高艦ガ二百人ノ我が忠勇ナル將士ヲ海底ノ藻屑トシテ、其悲惨ナ最後ヲ遂ギサセタト云フコトハ、畢竟其警備ノ爲ニ新高艦が出来タノデアリ、是ガ即チ此駐兵ノ結果ナリト私ハ斷言シテ憚リナイト思フノデアリマス（拍手）尚モ聞クモ忌マハシイ問題ガアルノデアリマス、ソレハドウデアルカトスウ申シマスルト、今ヤ問題ガマダ未決ノ中ニアルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、露西亞ノ「カルミコフ」カラ金塊ヲ預クタト云フ、六十万圓ノ此金塊ガ戦争當時、所謂駐兵ノ時期ニ於テ預カタト云フ話デアル、此六十万圓ノ金塊ノ處分ハ未ダニ付カナイノデ、先日モ態、露西亞カラ談判ニ來タト云フ話デアル、先ヅ我ガ日本ノ軍器ヲ盜マレルト云フコトハ既ニ未ダ會テ無イ日本ノ恥辱デアルニ拘ラズ、今度ハ商人同様金ヲ預カタモノヲ紛失シテ返サナイト云フノデ談判ニ來ルト云フニ至テハ、我國ノ國威ヲドウスルノデアルカ（拍手）尙ホ無益ナル駐兵ノ結果、今回獲得ニ最モ意ヲ注イテ居ル某國ノ人ダ、若モ利用デモサレタナラバ、我ガ日本ノ國ガ折角澤山ノ金ヲ入レ、サウシテ利用スルモノハ某國人トアッタナラバ、如何ナル面目ガアツテ此政策宜シキヲ得タルモノナルト言ハレルデアリマセウカ、是

モ全ク所謂政策ノ大失態ノ結果ナリト斷言シテ憚ラヌノデ  
アル、私ガ今迄申シマシタノハ物質上ノ此駐兵ノ結果ノ大  
失態ヲ言ウタノデアル、更ニ精神的ノ損害ニ對シテ申シテ置  
キタイ點ガアル、私ハ斯ノ如キ失態ヲ來シタ以上ハ、將來我  
ガ日本國民ハ對外政策ニ對シ非常ニ疑フ持ツ、殊ニ戰爭  
ニ關スル觀念ニ於テ不安ノ念ヲ生ジハセヌカト思フ、隨テ國  
民ヲシテ義勇奉公ノ念ヲ或ハ薄カラシメナイカト云フコトヲ、  
私ハ精神上ノ損害トシテ虞レルノデアル、何故ナラバト云フ  
ト、理由ノ無イ出兵ハ駐兵ノ濫用ニナリハセヌカト云フコト  
ヲ私ハ虞レルノデアル、又斯ウ云フ理由ノ無イ出兵、即チ理  
窟ノ分ラヌ出兵ノ爲ニ戰死サレタ其人ノ遺族、或ハ病死サ  
レタ其人ノ遺族ニニ對シテ何トシテ政府が申譯ヲスルノデ  
アルカ、私ハ此遺族等ニ對シテ慰ムルノ言葉ハ無イデアラウト  
スウ思フノデアル、此慰ムル言葉ガ無イ、其遺族タルヤ必ズ  
不滿不平ニ驅ラレルニ違ヒナイ、此不滿不平ノ聲ガ何レノ  
處ニ勃發スルカト云フコトヲ私ハ之ヲ虞レルノデアル、精神  
上ノ損害トシテ又第三トシテハ、將來我ガ日本國ハ對外關係  
係上如何ニ平和主義ヲ持續スルトハ言ヒナガラ、或ル場合  
ニ居テハ自主的ニ出兵スル必要ガアルカモ知レナイ、其時ニ  
果シテ大多數ノ國民ガ後援スルカドウデアラウカ、其後援  
ニ對スル私ハ危惧ノ念ヲ起スノデアル、何故ナラバト斯ウ申シ  
マスルト、斯ノ如キ大ナル失敗、大ナル政策ノ失敗ノ其結果、  
出兵スルト云フコトハ或ハ國民全體ヲシテ不安ノ念ニ驅ラ  
シメハセヌカト云フコトヲ私ハ心配スルノデアリマス、此三點  
ハ私ハ精神上ノ損害ナリト信ズル點ニ於テ申上ゲル、サウ致  
シマスト云フト、今回ノ詰リ駐兵ハ徹頭徹尾失敗デアル、此  
六億ノ金三千人ノ戰死者、其他有形無形ノ損害ヲ不可  
抗力ナラニムヲ得ヌノデアル、又誰ガ考へテ見テモ一慮ソレ  
ガ利益ナリト云フ所ノ程度ナラバ是亦已ムヲ得ヌノデアル、  
所ガ大正九年ニ既ニ私ハ憲政會並ニ在官者、其局ニ當ル  
人ガ反對シテ十分考慮參酌スル餘地ノアルニ拘ラズ、尙  
ホ駐兵シタノデアルカ、其罪最モ深シト私ハ斷言シテ憚ラ  
ヌノデアル、拍手所ガ此點ニ對シテ、先日此議席ニ於テ望  
月君カラ此責任ハ如何、御承知ノ通ニニ是ハ政策ノ失敗  
デアル、不可抗力デナイ、政策ノ失敗デアル以上ハ、所謂政  
府質問ニ對シテ、責任觀念ハ責任觀念ナリト云フ、殆ド成  
治ニ關與シタ者ガ負フノハ當然デアル、今日ハ立憲政治ト  
シテ責任政治デアルカラシテ、此點ニ對シテ望月君カラドウカ  
問ニ對シテ、ドウ云フ答辯ヲシテ居ルカト斯ウ申シマスルニ、  
ソレハ露西亞ト日本トハ接續地デアルト云フコトガ第一ノ

理由トナシテ居ル、怪シカラヌ話、接續地デアルト云フコトハ  
地球ガ初テ出来タ當初カラノ話アル、又出兵ハ接續地  
ガ出来タト云フノデ駐兵シテ居ルノデハナイ、故ニ是ハ理由  
ニハナラヌ、ソレカラ赤化ガ滿洲並ニ朝鮮ニ及ボスト云フコ  
ト、是ガ理由ニナシテ居ル、滿洲並ニ朝鮮ヲ擁護スルト云フ  
コトヲ言ウテ居ルガ、是ハ驚イタ話アル、西伯利ニ七万五  
千人ノ兵隊ヲ出サナケレバ滿洲朝鮮ニ赤化ガ來ル、之ヲ防  
止ガ出来ナイト云フ理由ガ分ラナイノデアル、何故ナラ軍人  
ハ即チ戰鬪ノ士デアル、思想ヲ征伐スル者デナイノデアル、此  
人等ガ西伯利ニ行シテ、或ハ戰鬪ノ關係ニ於テハ其效ヲ爲  
スカモ知レマセヌガ、思想ヲ討伐セヨト云フニ至テハ全ク意  
味ヲ爲サヌノデアル、所謂朝鮮、滿洲ニ思想ノ及ブノ恐レ  
タナラバ、朝鮮、滿洲ノ區域ニ於テ十分防禦ノ餘地ガアルノ  
デアル、然ルニ意味ナキ出兵ヲシテ、サウシテ其害ハ今申上  
ゲル通リデアル、又事實ニ於テドウデアル、是ダケノ出兵ヲシ  
タカラ成功ガアタカト云フト、今日ノ西伯利ノ方面ハ全部  
赤化シテ居ルデアリマセヌカ、之ヲ見マシタ所デ所謂政府當  
局ノ政策ノ誤シテ居ラタ云フコトハ明瞭デアルノデアル、吾々  
會テ日本ニ無イ此大恥辱、大犠牲ヲ拂テ、ソレ以上日本  
ノ國益ガ上ルト云フナラバ、是ハ已ムヲ得ヌ話デアル、政治ハ  
結局大ト小ト打算シテ立案スルト云フノガ政治ノ要諦ト  
斯ウ思フ、今申上ゲタ通リニ有ユル方面ガ全部國ノ恥辱ト  
國ノ不利益ヲシテ居ルニ拘ラズ、何レノ點ニ利益ヲ求メタカ  
ト云フト是モ無イノデアル、加藤總理大臣ノ所謂今申シマ  
スヤヤウニ接壤地トカ何トカ云フヤウナ問題ハ殆ド答辯ニ  
ナシテ居ラヌノデアル、若シ是ダケノ理由デ斯ノ如キ大ナル出  
兵ヲシテ失敗ヲシタト云フナラバ、是ハ提燈ト釣鐘ト換ヘル  
ソレヨリ以上ノ不權衡ノ甚シイモノト思フ、尙ホ加藤總理  
ト問返サナケレバナラヌ、斯ノ如キ點カラ申シマスト、此内  
閣否加藤友三郎其人ニ於テハ、其責任ヲ背負フノハ當然  
デアルト思フ、併ナガラ加藤總理大臣ハ斯ウ云フコトヲニ云フ  
カモ知レマセヌ、吾々ハ海軍大臣トシテハ成程大正七年八  
月ノ宣戰ノ詔勅ニ——宣言ニハ判ヲ捺シタ、併ナガラ斯は八陸  
海軍ト云フモノハ日本ニ於テ特殊ノ地位ニ在ル、政策一般  
ニ對シテ責任ヲ負フモノデナイ、其證據ニ今日迄ノ此内閣  
アルガ、陸海軍大臣ダケハ今日迄ハ何時デモ居残リデアル、  
ソレデアルカラ此政策ニ對シテモ大ナル失敗、所謂空前ノ大

失敗デアルガ、皆海軍大臣、陸軍大臣デアルカラ 責任ガ無  
レト云フカモ知レヌノデアル、併シ是ハ海軍ノ一技師ナラソ  
レデ宜イ、海軍大臣ト云フ行政長官ナラソレデ宜イノデア  
ル、去ナガラ苟モ憲法上國務大臣トシテ輔弼ノ任ニ當リ、國  
策遂行ニ對シテ連帶責任ヲ有シテ居ル以上ハ、所謂此遁  
辭ハ許サヌノデアル、況ヤ加藤友三郎氏ハ確カ大正六年夏  
ノ議會、寺内内閣ト思フ、其時ニ本野一郎氏ガ外務大臣  
デ大變此議場ガ紛糾シタ事ガアル、而シテ外交ノ問題デアッ  
タガ尾崎氏カラ此外交ノ問題ハ他ノ閣僚モ責任ヲ負フノ  
カト云フ質問ニ對シテ、加藤友三郎氏ハ無論連帶責任ナ  
リト云フコトヲ言明シタコトハ、彼レ自身モ記憶ガアルグラ  
ウト思フ、斯ウ致シマス以上ハ憲法ノ正條カラ論ジ、彼レ加  
藤友三郎自身ノ大正六年ノ當議會ノ言責カラ申シマシテ  
モ、此問題ニ對シテ責任ヲ負フノカ私ハ當然ナリト斯ウ思  
フ（拍手）私ハ思フ、併シ當局ガ之ヲ失態ナイト信ズルノデ  
アルカドウデアルカ、昔ハ所謂大ナル失態ヲシタ時ハ切腹シ  
タト云フコトデアリマスガ、今日ハサウデナイ、詰リ責任ノ觀  
念デ其職ヲ去レバ解決スルコトニナッテ居リマスガ、去ナガラ  
近頃希臘ノ首相ダ土耳其古ニ戰フシテ、サウシテ戰ニ負ケタ  
ト云フ死刑ノ宣告ヲ受ケテ居ル、今日ト雖モ尙ホ國ニ依ッ  
テハサウニ云フ國モ世ノ中ニアル、私ハ死刑ノ宣告ト云フサウ  
云フコトヲ言フノデハアリマセヌガ、免モ角斯ノ如キ大失態  
ヲ來シ、恬然其地位ニ居ルト云フコトハ果シテ責任ヲ知ル  
政治家デアルカドウカト云フコトヲ疑フノデアル（拍手）而モ  
中途ニナッテ内閣ニ入ッタ人ナラバ、ソレハ幾ラカ宥恕スベキ  
點ガアルケレドモ、彼レ加藤友三郎氏ノ内閣ニ入ッタノハ確  
カ大正五年デ、此問題ハ大正七年八月二日ニ起テ、サウ  
シテ其宣言書ヲ彼レ自ラ署名シテ居ル、大正十一年十月  
ニ問題ガ解決シタノデアル、此間全部彼ハ大臣トシテ其地  
位ニ立ツテ居ルノデアルカラ、陸海軍ハ共同動作ノ關係カラ  
申シマシテモ、國務大臣ノ地位カラ申シマシテモ、彼ガ大正  
六年ニ此議會デ公言シタ點カラ申シマシテモ、彼ハ責任ヲ  
負ウテ上、陛下ニ對シ、下國民ニ對シ、サウシテ其職ヲ退ク  
ノガ當然ノ責任ナリト私ハ斯ウ思フ（拍手）併ナガラ今私ノ  
申シタコトガ是ガ果シテ過失デナイ——或ハ過失デナイト云  
フカモ知レヌ、私ハ過失デナク所謂政策ノ失敗デナイト云フ  
コトデアレバ、政策ノ失敗デナイト云フ言明ヲ得タイ、併ナガ  
ラ如何ニ厚顏無恥ナル加藤友三郎ト雖モ、是ガ政策ノ失  
敗デナイト云フダケノ勇氣ハナイグラウト思フ（拍手）若シソ  
レ政策ノ失敗デアルトシタナラバ、彼レ自ラ責任ヲ負シテ辭  
職スルノガ當然ナリト私ハ第一トシテ此西伯利ノ駐  
兵ハ詰リ過失デアルカドウデアルカト云フ問題、過失デナク

政策上ノ失敗デアルカドウカ、若シ政治上ノ失敗デアッタナラバ、彼レ自ラ詰リ立憲政治ノ責任ニ於テ如何ニ處決スルカ、此二點ニ對シテ質問ヲスル次第アリマス、是ダキ述べマス(拍手)

○議長(柏谷義三君) 次ハ經濟界救濟ニ關スル件ニ付テ  
意見ノ陳述ガアリマス、橋本喜造君

### 經濟界救濟ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル 橋本喜造君ノ意見

#### 經濟界救濟ニ關スル再質問主意書

金利引下ハ各般ノ影響ヲ考慮シテ適當ナル時機ヲ選ハサルヘカラサルハ勿論ナルモ其ノ所謂適當ナル時機トハ如何ナル條件ヲ具備スル時機ヲ指スヤ現時ハ最其ノ適當ナル時機ナラサルヤ

右及再質問候也

#### 〔橋本喜造君登壇〕

○橋本喜造君 大分議場ガダレタヤウデゴザイマスガ、成ベク簡単明瞭ニヤリマス、暫クノ間御清聽ヲ願ヒマス、本年ニ一月二百巴里ニ開カレマシタル各國首相會議ハ、僅カ二日ニシテ決裂シ、遠ニ佛國ヲシテ「ルール」ノ地方ヲ占領スルノ餘儀ナキニ至ラシメタノアリマス、隨テ會議ノ眼目タル對獨賃借金問題ノ解決ハ混沌トシテ前途尚ホ遼遠タルガ如キ感、英米兩國ノ如キハ此問題ノ如何ニ拘ラズ、經濟界ノ回復ニ對シマシテハ政府國民、所謂舉國一致有ユル犠牲ヲ惜マシタカ、此期待ハ見事ニ裏切ラマシテ、實ニ慘澹タル決裂ヲ遂グマシタコトハ吾人ノ最モ遺憾トスル所アリマス、英米兩國ノ如キハ此問題ノ如何ニ拘ラズ、經濟界ノ回復ニ對シマシテハ政府國民、所謂舉國一致有ユル犠牲ヲ惜マス、有ユル方法ヲ講ジマシテ、所謂非常ノ時期ニ於テ非常ノ手段ヲ斷行致シマシタカ爲ニ、既ニ曙光ヲ認ム、日ヲ追ウテ順調ニ經濟界ハ回復シツ、アルノアリマス、又英吉利ノ如キ海外貿易、殊ニ東洋向ノ綿絲、綿布、其他數種ノ品目ニ對シマシテハ、政府自ラ運賈ノ幾分ヲ負擔致シマシテ、斯業ヲ獎勵シツ、アルノアリマス、又獨逸製品ノ如キハ馬克ノ下落、爲替ノ關係上、非常ナル安價ヲ以テ全世界ニ向テ捲土重來、凌ジキ熱ヲ以テ輸出セラレシ、アルノアリマス、是ガ爲ニ我國ノ產業界ハ尙ホ一層壓迫セラレマシテ、實ニ悲ムヘキ退變的狀態ヲ現シツ、アルノアリマス、昨年ノ如キ我國米作ハ非常ナル豐作アリマシテ、外國米ノ輸入ハ殆ド皆無ニ近ク、又紡績事業不振ノ爲ニ棉花ノ較入殊ニ僅少ニシテ、啻ニ是等二大輸入品ノミナラズ、我國ノ經濟界ハ今尙ホ不景氣ノドン底ニ在リマシテ、一般物質ノ消化

ス、皆三時年度ノ輸入超過額二億六千万圓ニ上リタリト云フコトハ、驚クベキ現象デハアリマセヌカ、實ニ寒心スペキ事柄デアルト言ハナケレバナラヌノアリマス、是ニ於テ私ハ最も痛切ニ感ジマス、水ハ低所ニ流レ物資ハ高所ニ集マルト云フ原則ヲ、強ク脳裡ニ印象セラレンコトヲ、政府當局ニ希望スル次第アリマス、十九箇條ノ物價調節ヲ産聲トシタ加藤内閣ハ、引續イテ暴利取締令ヲ出スト云フコトが一般ニ傳ヘテレテアタノアリマス、併ナカラ此暴利取締令ハ某政黨ノ壓迫ニ依テ、御中止ニナシタト云フ話アリマス、此暴利取締令ナルモノカ、曩ニ發表シタル所ノ十九箇條ノ物價調節令ノ如キ幼稚ナモノアリテ、而モ不徹底ナモノアリテ、有害無益ノモノアリマシタナラバ、寧ロ御中止ニナシタ方ガ、現内閣ノ信用ヲ保ツ上ニ於テ遙ニ御利益ニアタラウト私ハ信ズルノアリマス、政府ハ五厘若クハ六厘ノ預金利子ヲ以テ預リタル幾億万圓ノ大金ヲ、三錢若クハ四錢ト云フ高利ヲ以テ貸付ケル所ノ銀行家ヲ餘所ニシテ、小商人中ノ最モ小商人タル全國中ノ餉飢、蕎麥屋ヲ征伐シマシテモ、全國中ノ風呂屋ヲ征伐致シマシテモ、物價調節ハ絕對ニ出来ルモノアリマセヌ、現ニ荒井農商務大臣ハ正米師ヤ、或ハ相場師ヲ煽動致シマシテ、米價ヲ高ク釣上げ、尙ホ其釣上ダタル米價ノ上ニ幾「ペーセント」カヲ加算致シマシテ、三十五万石ノ米ヲ買上ダテ居リマス、尙ホ引續イデ百万石ノ米ノ買上ヲ發表致シテ居リマス、斯ノ如キ事ヲ致シマシテ、如何ニシテ物價調節が出來マセウカ、單リ物價調節が出来ザルニミナラズ、農民救濟ノ爲ニ買入レマシタル百三十五万石ノ米穀ハ、或ハ農民穀シ百三十五万石ノ米ニ變化シハセヌカト本員ハ杞憂ニ堪ヘヌノアリマス、御承知ノ如ク昨年ノ米穀ノ實收穫ハ六千百万石、我ガ日本帝國開闢以來第三回目ノ豐年アリマス、此豐年ニ於キマシテ僅ニ五十万石ヤ、百万石ノ米ヲ買入レタト致シマシテモ、決シテ機械ヲ以テスルト云フ意味アリマス、私ハ今日日本ノ勞働者ノ賃銀ヲ敢テ高イトハ申シマセヌ、寧ロ之ヲ歐米諸國モ何等大差ハナインデアリマス、勞力ヲ省クト云フコトハ安い金利ノ金ヲ使テ斬新ナル機械ヲ買入レ、勞力ニ代エルニアルノアリマス、現ニ英國ニ於キマシテハ一般貸出金利ハ二朱七八厘、最モ高キモノガ四朱位アリマス、亞米利加歐米各國ニ比較致シマシタナラバ、實ニ天地霄壤ノ相違ガアルノアリマス、現ニ英國ニ於キマシテハ一般貸出金利ハ二朱七八厘、最モ高キモノガ四朱位アリマス、亞米利加歐米各國ニ比較致シマシタナラバ、其半額ニモ當ラヌノアリマス、現ニ英國ニ於キマシテハ一般貸出金利ハ二朱七八厘、最モ高キモノガ四朱位アリマス、亞米利加歐米先進國ノ職工ハ單ニ機械ノハンドルヲ握ルトカ、或ニ機械ニ油ヲ差ス位ナモアリマス、ソレダケ一般ニ機械ガ普及セラレテ居ルノアリマス、之ニ引換ヘテ我勞働者ニ比較致シマシタナラバ、其半額ニモ當ラヌノアリマス、併ナガラ歐米先進國ノ職工ハ單ニ機械ノハンドルヲ握ルトカ、アリマス、隨テ能率モ高ラズ、品質ノ一定モ出來ズ、實ニ不經濟極マルモノアリマス、諸君國家ノ財政即チ豫算ノ切盛ハ、法律ノ定ムル所ニ從テ國民ヨリ租税ヲ取立テ、之ヲ支所ノ材料ガ無クナル、ソレガ爲ニ反落ヲ來シマシテ、或ハ二十

園塗ヲ割ルヤウナ反落ヲ見ルカモ知レヌ、サウ致シマスレバ折角農民救濟ノ爲ニ買上ダタ所ノ百三十五万石ノ米ハ、農民殺シノ百三十五万石ニナリハセヌカト心配スルノアリマス、是ニ於テ私ハ斷言スル、農民ハ金利ト農業勞銀ガ安ケレバ、何等困ラナイアリマス、農業勞銀ト金利ガ安カクナラバ、總テノ物ガ安クナルが當然アリ、總テノ物ガ安クナリマス、是ニ於テ私ハ断言スル、農民ハ金利ト農業勞銀ガ安ケレバ、何等困ラナイアリマス、農業勞銀ト金利ガ安カクナラバ、農民ハ困ラナインアリマス、現ニ此處ニ木下君ト云フ原則ヲ、強ク脳裡ニ印象セラレンコトヲ、政府當局ニ希望スル次第アリマス、十九箇條ノ物價調節ヲ産聲トシタ加藤内閣ハ、引續イテ暴利取締令ヲ出スト云フコトが一般ニ傳ヘテレテアタノアリマス、併ナカラ此暴利取締令ハ某政黨ノ壓迫ニ依テ、御中止ニナシタト云フ話アリマス、此暴利取締令ナルモノカ、曩ニ發表シタル所ノ十九箇條ノ物價調節令ノ如キ幼稚ナモノアリテ、而モ不徹底ナモノアリテ、有害無益ノモノアリマシタナラバ、寧ロ御中止ニナシタ方ガ、現内閣ノ信用ヲ保ツ上ニ於テ遙ニ御利益ニアタラウト私ハ信ズルノアリマス、政府ハ五厘若クハ六厘ノ預金利子ヲ以テ預リタル幾億万圓ノ大金ヲ、三錢若クハ四錢ト云フ高利ヲ以テ貸付ケル所ノ銀行家ヲ餘所ニシテ、小商人中ノ最モ小商人タル全國中ノ餉飢、蕎麥屋ヲ征伐シマシテモ、物價調節ハ絕對ニ出来ルモノアリマセヌ、現ニ荒井農商務大臣ハ正米師ヤ、或ハ相場師ヲ煽動致シマシテ、米價ヲ高ク釣上げ、尙ホ其釣上ダタル米價ノ上ニ幾「ペーセント」カヲ加算致シマシテ、三十五万石ノ米ヲ買上ダテ居リマス、尙ホ引續イデ百万石ノ米ノ買上ヲ發表致シテ居リマス、斯ノ如キ事ヲ致シマシテ、如何ニシテ物價調節が出來マセウカ、單リ物價調節が出来ザルニミナラズ、農民救濟ノ爲ニ買入レマシタル百三十五万石ノ米穀ハ、或ハ農民穀シ百三十五万石ノ米ニ變化シハセヌカト本員ハ杞憂ニ堪ヘヌノアリマス、御承知ノ如ク昨年ノ米穀ノ實收穫ハ六千百万石、我ガ日本帝國開闢以來第三回目ノ豐年アリマス、此豐年ニ於キマシテ僅ニ五十万石ヤ、百万石ノ米ヲ買入レタト致シマシテモ、決シテ機械ヲ以テスルト云フ意味アリマス、私ハ今日日本ノ勞働者ノ賃銀ヲ敢テ高イトハ申シマセヌ、寧ロ之ヲ歐米諸國モ何等大差ハナインデアリマス、勞力ヲ省クト云フコトハ安い金利ノ金ヲ使テ斬新ナル機械ヲ買入レ、勞力ニ代エルニアルノアリマス、現ニ英國ニ於キマシテハ一般貸出金利ハ二朱七八厘、最モ高キモノガ四朱位アリマス、亞米利加歐米各國ニ比較致シマシタナラバ、其半額ニモ當ラヌノアリマス、現ニ英國ニ於キマシテハ一般貸出金利ハ二朱七八厘、最モ高キモノガ四朱位アリマス、亞米利加歐米先進國ノ職工ハ單ニ機械ノハンドルヲ握ルトカ、或ニ機械ニ油ヲ差ス位ナモアリマス、ソレダケ一般ニ機械ガ普及セラレテ居ルノアリマス、之ニ引換ヘテ我勞働者ニ比較致シマシタナラバ、其半額ニモ當ラヌノアリマス、併ナガラ歐米先進國ノ職工ハ單ニ機械ノハンドルヲ握ルトカ、アリマス、隨テ能率モ高ラズ、品質ノ一定モ出來ズ、實ニ不經濟極マルモノアリマス、諸君國家ノ財政即チ豫算ノ切盛ハ、法律ノ定ムル所ニ從テ國民ヨリ租税ヲ取立テ、之ヲ支所ノ材料ガ無クナル、ソレガ爲ニ反落ヲ來シマシテ、或ハ二十

マス、併ナガラ民間ノ經濟ハ斯ノ如キ單純ナルモノデハアリマセヌ、又人種ヲ異ニシ、隨ア國情ヲ異ニシ、法律ヲ異ニシタル所ノ世界各國ヲ相手トシナケレバナラヌノデアリマス、而シテ競争ノ結果必ず優勝者トナラナケレバナラヌノデアリマス、優勝者トナルニ付キマシテハ、如何ニシテモ最低金利ノ金ヲ使ハナケレバナラヌノデアリマス、簡単明瞭ナル實例ヲ舉ゲマス、東洋ニ約一千万圓ノ借金ノミヲ以テ營業シテ居ル英吉利人ガアリマス、是ト同様ニ日本人テ以テ矢張一千万圓ノ借金ノミヲヤテ居ル日本ノ商店ガアリマス、孰レモ一年ノ割合ニ於テ約一百万圓ノ利益ヲ計上致シテ居リマス、然ルニ英國ノ商館八年利三朱ノ金ヲ使フテ居リマス、斯ノ如キ百万圓ノ利益ニ對シテ三十万圓ノ金利ヲ差引き、殘餘ノ七十萬圓ヲ以テ六分ノ配當ヲ爲シ、尚且ツ幾部分ノ積立金ヲシテ居ルノデアリマス、之ニ引換ヘテ我が日本ノ商店ハ、同ジ百万圓ノ利益ヲ得テ居リマスが年利一割一分ノ金ヲ使フテ居ルガ爲ニ、一文ノ配當ヲ爲スコトガ出來ザルノミナラズ、尚且ツ二十萬圓ノ損失ノ繰越ヲ致シテ居ルデハアリマセヌカ、是ハ單ニ金利ノミノ相違ニアリマス、サレバトテ金利ノ引下ハ決シテ容易ナ事デハアリマセヌ、餘リニ急激ナル金利ノ引下ハ或ハ財界ノ安定ヲ妨ゲルト云フ虞ガ無イ譯デモアリマセヌ、併ナガラ世界ノ大勢ニ鑑ミ、我が日本ノ今日ノ經濟上ヨリ考ヘマシタナラバ、如何ニ致シマシテモ日本銀行ノ貸出日歩、所謂標準金利、之ヲ一錢五厘位マデニ引下グ、一般金融市場ノ金利ヲ一錢六厘、若クハ一錢七厘マデ引下ゲルト云フコトガ、最モ妥當ナリト本員ハ信ズルノデアリマス、昨年十一月二十五日大阪ニ開カレマシタル關西銀行大會ニ、市來大藏大臣ト井上日銀總裁ト共ニ臨席セラレテ、恰モ兩君打合セタルガ如ク、銀行家ニ向ヒテ預金利子ノ協定ニ對シテ非常ナル御褒ノ言葉ヲ給フタノデアリマス、之ニ對シテ一部ノ老人連中ハ隨喜ノ涙ヲ零シタ云フコトデアル、併ナガラ多數ノ識者ハ時代後レノ陳腐言葉ナリトシテ之ヲ一笑ニ付シ去タノデアリマス、元來預金利子ノ如キハ銀行其モノ、信用、銀行其モノ、資本、或ハ特殊ノ關係ニ依リマシテ之ヲ自由競争ニ任スペキモノデアリマシテ、決シテ協定スベキ性質ノモノデハアリマセヌ、況ヤ當座預金ノ如キハ尙更デアル、果セル哉其是ガ協定ヲ爲シタルガ爲ニ、反對ニ貸付ニ於テ大競爭ガ起り、昨年末ノ如キハ財界不安ノ時期ニ於テハ、平素粗放ナル貸付振ヲ爲シテ居ル一流乃至二流銀行ノ大部分ハ緩慢ナル引出シニ逢ヒ、或ハ急激ナル取付ニ遭ヒマシテ、實ニ慘澹タル光景ヲ現シタデハアリマセヌカ、是ハ諸君御承知ノ通りデアル、其反對ニ堅實ナル銀行ニハ預金ヲ

殺到シタノデアリマス、是ハ寧ロ當然ノ歸結デアル、要スルニ歐米先進國ニシテ善政ノ行レル文明國ダケ金利ハ安イノデアリマス、而シテ一般ノ銀行ニ於キマシテモ特別預金或ハ定期預金ノ外、我國ノ當座預金ノ如キ性質ノモノニ對シテハ、最初ヨリ金利ヲ附セザルコトニナシテ居ルノデアリマス、故ニ此際我國ニ於キマシテモ特別預金或ハ定期預金ノ金利ヲ引下グ、當座預金ノ金利ヲ全廢スルト同時ニ貸付ニ對スル所ノ金利ヲ出来得ル限り引下グ、以テ極度ニ銷沈セル現下ノ經濟界ヲ救濟スルコトハ焦眉ノ急ニシテ、一日モ忽ニスルコトノ出來ナイ事柄デアリマス、而シテ之ヲ救濟スルハ輔弼ノ任ニテル總理大臣加藤友三郎君ヲ初メトシ、帝國ノ財政ヲ雙肩ニ擔ヒ且ツ帝國ノ產業ヲ盛ニシ、同時ニ國民經濟指導ノ任ニ在ル所ノ大藏大臣市來乙彦君、農商務大臣荒井賢太郎君、當然ノ責任ナリト信ズルノデアリマス、尚ホ進ニ申上ダマルカ、御承知ノ通り最近英國ノ對米借款五十億万弗、此債還問題ハ英國ガ米國ノ提案ヲ受諾致シマシテ、其償還期限ヲ六十二箇年トシ、最初ノ十箇年間ハ年三朱、殘餘ノ五十二箇年間ハ三年五厘ノ金利ト致シタノデアリマス、是ハ近ク米國ノ議會ニ於キマシテ、滿場一致ヲ以テ必ズ通過スルモノト一般ニ信ゼラレテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ英米爲替ハ暴騰致シマシテ、今日ハ四弗六十九仙八分ノ三ト云フヤウナ新高値ヲ現シテ居ルノデアリマス、申上グルマデモナク英米借款債券自己ノ信用ヲ利用致シマシテ、制限外ノ紙幣ヲ發行シ、通貨ヲ膨脹セシム、金利ヲ引下ゲテ産業ヲ獎勵シツ、アルノデアリマス、而シテ現在英國ニ於ケル所ノ通貨ハ一人當リ九十一圓八十錢、米國ハ八十二圓四十錢、我ガ日本ハ二十六圓十錢、又通貨ニ對スル金ノ準備、英國ハ三割五分、米國ハ七割一分、我ガ日本ハ九割四分、斯ニ如キ有様ニナシテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ市來大藏大臣ノ先輩デアリ、且ツ經濟學者デアル某氏ノ最近ノ著書ニ斯ウ云フコトヲ書イテアリマス、是ハ極ク簡單デアリマスカラ申上ダテ置キマス「英國ハ英蘭銀行券ニハ十分ノ金準備ヲ有スレド現在ノ英國ニ流通スル貨幣ノ約七割ヲ占ムル政府發行ノ紙幣ニ對シテハ十分ノ一二モ足リナイ金準備シカナイ、而モ猶テ大戰前ニ十五倍スル通貨ヲ流通セシメ、內國産業ノ發達ニ努力スルノミナラズ其信用ヲ利用シテ外國ノ借款ニスラニテセントシテ居ル、然ルニ我國ハ殆ド流通貨幣ニ等ミキ金準備ヲ擁シテ、却テ通貨縮小ノ聲ニ傾聽シテ居ル、金ノ運

用ニ於テハ英國ト我國トハ當ニ格段ノ巧拙ガアルデハナリカ、政府當局以テ如何トナス」斯ウ云フヤウナコトガ書イテアルノデアリマス、頗クハ此際我國ニ於キマシテモ制限外ノ紙幣ヲ發行シ、通貨ヲ膨脹セシム、金融ヲ圓滑ニシ、金利ヲ引下グ、產業ヲ獎勵スルノミナラズ、國家國民ヲ救濟スルハ加藤内閣當面ノ急務ナリト私ハ信ズルノデアリマス、以上本員ノ述ベ來リタル事柄ニ對シマシテ、政府當局ノ明確ナル答辯ヲ希望致シテ此壇ヲ降ルコトニ致シマス（拍手）○議長（稻谷義三君）最後ニ羅馬法王廳トノ使節交換ニ開スル件——押川方義君

羅馬法王廳トノ使節交換ニ關スル質問

答辯ニ對スル押川方義君ノ意見

〔押川方義君登壇〕

○押川方義君 今月十三日ノ豫算總會議ニ於キマシテ、羅馬法王廳ニ使節ヲ派遣致シマスル費用ガ政府ヨリ要求セラレマシタガ、衆議院ニ於キマシテハソレヲ創除致サレマシタ、當時私ハ極テ之ヲ遺憾ト致シマシタノデアリマス、去ナガラ固ヨリ院議ヲ重ンズルノ精神ハ申スマデモナイコトデアリマス、故ニ自分ノ意見ヲ申述ベマシテ、議員諸君ノ再考ヲ願ヒタイト思ヒマシタガ、遂ニ討論終結ノ議ガ出マシテ、ソレガ採用致サレマシタ故ニ、當日其事ヲ述ブル機會ヲ失タノデアリマス、其時ニ委員長ガ削除致シマスル理由トシテ申サレマシタル所ノコトハ三箇條デアリマス、ソレハ羅馬法王廳以外ニ締盟國ハマダ一二三箇國モアズ、使節ノ交換ラシテ居ラナイ故ニ、必ズ今日羅馬法王廳ニ使節ヲ遣ハス必要ハナカラウ、是ガ一箇條、次ハ此事ニ付テハ國民ノ多數ガ未ダ意義ヲ能ク諒解シテ居ラナイ、故ニ今日之ヲ強テヤレバ或ハ友好ヲ害スル虞ガアルカモ知レナイカラト云フノガ第二デス、第三ハ今日ハ總テ政費ヲ節減致スコトヲ以テ政治ノ方針トシテ居ル時デアルカラ、十万圓ノ金ト雖モ此費用ヲ出斯必要ハナカラウト思フ、此三箇條デアリマス、是等ノ理由ヲ以テ此極テ「デリケート」ヲ外交問題ノ必要條件ヲ否決シテシマフト云フコトハ、我輩思フニ議院ノ取調ガ極テ粗漏ト考ヘマス（ノウー「サウデナイ」ト呼フ者アリ）併ナガラ斯ノ如クナラシメタ所以ノモノハ、政府ノ責任極テ大ナルモト思フ、斯様ニ種々ナル關係ノアル事柄ヲ提案致シテ置キマシテ、其答辯振ハ極テ粗魯要領ヲ得テ居リマセヌコトニミラ言ハレテ居リマス、殊ニ宗教上ノ關係ガアリマシテ、其當時

シマシテモ、又國民ニ對シマシテモ、此使節交換ノ最モ重大ナル事柄ヲ極テ口ヲ盡シ、言葉ヲ盡シマシテ説明ヲ加ヘナケレバナラナイデアルニモ拘ラズ、是ハ直接宗教ニハ敢テ關係ノ無イモノダト言放シタ位ノコトデ、既ニ答辯ガ盡キタ云フヤウニ思テ居タコトハ大ナル誤デアリマス、御承知ノ如ク「ヴァチカン」ト英國ノ帝室トハ歴史的怨ヲ持タ二朝公使ヲ出スト云フコトハ、國家ノ爲ニ極テ重大ナ事デアル、是ハ歐羅巴大戰以來既ニ始マフタ事ダトスウ申シマシタヘンリ一八世ハ羅馬法王カラ破門ヲセラレ、サウシテ英吉利「チヨルチ」ト云フ者ハ十七世紀ノ時ニ於テ羅馬法王ニ反抗ラシテ居タノアリマス、然ルニモ拘ラズ此際外交ノ重要事件ノ爲ニ交換ヲ開始シタト、「ロイドジョージ」ハソレダケ信用ノアル人デアッタカラ、其言ヲ言葉ニ議會ガ承認シタ、佛蘭西モ御承知ノ通リ「ヴァチカン」ト共和政治トハ非常ナ怨ノアル間柄デアリマスルカラ、公使ヲ交換シヤウトスル時分ニハ隨分議論ガアテ、有力ナル委員ガ選マレテ調査ヲ致シマシタ、其報告ハ「ヴァチカン」ト佛蘭西が交渉ヲ開始スルト云フコトハ、彼ノ道徳ヤ信仰ヲ採用スルト云フコトデハナカ、外務省ニ於テハ此事柄ナドハ十分ニ御承知ニナシテ居ル善デアッテ、今日日本ノ所謂委任統治ニナシテ居リマス「マー・シヤル」「カロリン」モ、最初獨逸ノ手ニ入リマス前ニハ西班牙領ニアダ、西班牙カラ取リマシタ所ノ者ハ「ビスマルク」デアル「ビスマルク」カ羅馬法王廳ヲ用井テ之ヲ取タノアリマス、「ロイドジョージ」ガ愛蘭ノ困難ノ爲ニ羅馬法王廳ヲ使マス所ノ各領地ハ、今日ノ所デハ兔角日本人ガ排斥サレテハウト致シマシタガ、終ニ是ハ拒絶サレテシマダ、是カラ我國ガ大發展ヲ致シマスル爲ニハ、ドウ致シマシテモ海外ニ向テ發展ヲスルヨリ外ニナイ、「アングロサクソン」ガ占イテ居リハ先づ日本人ガ自由ニ行カレル所ハ支那ヲ除キマシテハ南洋、或ハ南米デアリマス、其南洋、南米ト云フ所ハドンナ狀居リマス、是モ十分ナル交渉ヲ達メシテ、遂ニ彼等ノ迷夢ヲ開カナケレバナラニ義務ハゴザイマス、去ナカラ今日ノ所デテ发展ヲスルヨリ外ニナイ、「アングロサクソン」ガ占イテ居リハ先づ日本人ガ自由ニ行カレル所ハ支那ヲ除キマシテハ南洋、或ハ南米デアリマス、其南洋、南米ト云フ所ハドンナ狀

事速記錄第十七號 羅馬法王臨トノ使節交換ニ關スル質  
態デアルカト云ヘバ、大概皆「ローマンカソリック」ノ信者デア  
リマス、「ローマンカソリック」ノ信者ハ唯、國ト國トガ交際ス  
ルト云フバカリデナク、宗教上ノ觀念ガアリマス故ニ、交際ス  
ル人モソレ等ノ心得ヲ持テ掛ラナケレバ、巧ク交際ノ出來  
ナイト云フコトハ言フマデモナイコトデアリマス、日本カ是カ  
ヲ發展ヲ致シマスル時ニハ、其考ヲ持テ居ラナケレバ、決シテ  
十分ニハ出來マセヌ、且ツ諸君ノ御承知ノ通り、我國ガ非  
常ニ困難ヲ致シテ居リマスノハ彼ノ「カリヲルニア」殊ニ桑  
港ノ排日思想デアリマス、其實行デアリマス、之ヲ解カント  
致シマシテモ、如何ニシテモ解ク事ニ苦シニ居リマスコトハ諸  
君ノ御承知ノ通りアリマス、此後ニハ誰ガ居ルノデアリマ  
スカ、此「カリヲルニア」ノ七八分ノ人間ハ誰デアリマス、皆  
南歐カラ移住致シマシタル所ノ「ローマンカソリック」教徒デア  
リマス、吾輩等ハ是等ニ依リ頼シニ事ヲシヤウト云フノデハ諸  
ナイガ、併ナガラ外交ヲヤル時ニハ當局者ニハ此手心ノ要  
ルコトハ言フマデモナイコトデアリマス、ソレ故ニ我ガ當局者  
ハ此事ニ付テハ三四年ノ間ノ宿題デアリマシテ、原内閣ノ  
時代カラ出サウ出サウト思ハレテ居タサウデアリマスガ、今日  
マデ其事ヲ實行セラレナイデ、此加藤内閣ニナリマシテ之ヲ  
出サレマシタ、大概ハ之ヲ出セバ通過スベキ所ノ信念ガアッテ  
出シタニハ相違ナイサウ私ハ思ウテ居リマシタ所ガ、其説明  
ガ極テ不十分不徹底、斯ノ如キ説明ヲ以テ此困難ナル問題  
ヲ容易ク解決ガ出來ルト思ハレタルコトハ、即チ當局者ノ不  
明デアリマス、當局者ノ大責任デアルト吾輩ハ考ヘル、ソレデ  
此反對ヲ致シマスル所ノ主ナル事ガ五六箇條アリマスケレ  
ドモ、ソレハ長イカラ別段言フ必要ハナイ、併ナガラ此反對  
論者ノコトハ誠實ヲ以テ聽カナケレバナラヌノデアリマスル  
ガ、其誠實ヲ以テ聽クベキ所ノ中ニ最モ大切ナル問題ノ一  
二ハ、即チ此「ローマンカソリックチャーチ」ト云フ者ト、日本ノ  
帝室トハ主義ニ於テマルデ正反対ノモノデアル、若シ此問ニ  
公使ノ交換ヲ致スヤウナコトガアッタラバ、終ニハ皇室ニ累々  
及スコトニナリハセナイカト云フコトグ最モ重大ナル、又極テ  
大切ナル所ノ反対論ノ一ツデアリマス、其次ハ日本臣民ガ  
得テ居リマスル所ノ信教ノ自由ヲ、若シ特別ニ彼ノ羅馬法  
王カラ使ハサレタル所ノ大僧正ニ與ヘルヤウナ事ガアリマシ  
タナラバ、終ニ其間ニ差等ノ情實ヲ起シマシテ、日本國民ノ  
信教ヲ妨害サレハセヌカト云フノデス、其他國際上學問上  
ノ色ミノ議論ガアリマスガ、ソレヲ言フ必要ハナイ、又羅馬法  
王ト云フ議論ガアルガ、ソレハ卑屈デス、ソンナ事ハ反対ノ論  
トスルニ及バナイノアリマス、今ノ一ツノ事ヲ一寸説明フシ  
シテ置キタイ、尤モ日本ノ皇室ニ累々及スヤウナモノハ「ロー

○議長(柏谷義三君) 静肅

〔「日本帝國ノ國會デハナイカ」馬鹿黙レトラ君  
黙レト呼フ者アリ〕

○議長(柏谷義三君) 私語ノ應酬ヲ禁ジマス——中野君  
○押川方義君(續) ソレ故ニ日本ノ皇室ニ向テハ決シテ  
非常ナ信仰ヲ致シマセウトモ、必ズ皇室ニ累ニ及スヤウナ事  
ガ無イト云フコトハ、彼等ガ世界統一ダトカ、教會至上ダト  
カ云フコトハ、國家ニ關係ヲシテ言ヒ居ル事テ少シモナイノデ  
アリマス、是ハ宗教觀ヲ以テ觀マヌラバ、明白ニ分ル事デア  
リマシテ、彼等自ラ唱ヘテ居ルコトデモ其通りアリマスガ故  
ニ、各國ニ矢張羅馬教ガ行ハレテ居リマシテモ、帝王ノアル

國も大統領ノアル國も、社會ノアル所ノ國が決シテ之ニ就テハ反対ヲシテ居ラナイト云ノコトガ、明ニ分テ居ルノデアリマス、ソレ故ニ是等ノ事ニ付テ恐ルベキ所ガ無イノミナラズ、若シ彼等ガ萬一斯ノ如キ事ヲ縱シヤ主張致シタ、カト申シマシテモ、天壤無窮ノ我が大日本帝國ノ基礎ガ彼等ノ意見ヤ主義ニ於テ動クト考ヘルコト、ソレ自ラガ馬鹿ラシイ事デアル（拍手）ドウ日本ト云フ國家ヲ考ヘテ居ルノカ、唯、獨リ「ヴァチカン」ノミナランヤ、獨逸ニアラウガ、英吉利ニアラウガ、亞米利加ニアラウガ、若シ日本ノ皇室ニ反対シタル所ノ議論ヲ唱ヘレバ、彼等ト交際ヲ絶タケレバナラスト思フ程ノ臆病怯弱ナル人間ガ、何デ日本ノ大計ヲ爲スコトガ出来ルカ（ノウ）況ヤ彼等ハサウ云フ意味ナイ者アルモノヲ其通りダト思ヒマスルコトハ、遺憾ノ極リデハアリマセヌカ、故ニ私ハ終リニ臨ンデ諸君ニ此事ニ付テ十分ノ御考ヲ願ヒタイ、是ハ私ガ最も遺憾ト致シテ居リマスルーハ、日本ノ佛法——今度極テ反対ヲ致サレマシタル、表面ニ現レタル人ハ日本ノ佛者ニアリマス（ヒヤ）此佛法ト云フモノハ東洋ニ於テ各國ニ行ハレタガ、佛者ノ言フコトヲ聽キマスルト、獨リ佛法ノ大乘祕義ハ日本ニ於テ初テ成就シタモノダト、斯ウ唱ヘラレナ居リマス、然レバ此佛法ト云フモノハ天下無二ノ真理デアルノデス、天下無二ノ眞理ヲ持テ居ル所ノモノハ日本ノ佛法信者ニアリ、今日歐羅巴ハ非常ニ思想ノ變動スル時デアリマス、歐羅巴ノ人ハ東洋ノ哲學、東洋ノ宗教、東洋ノ文學、東洋ノ技藝、總テ是マデ持テ居タ所ノ文明制度デハ満足シナイデ、東洋ノ物ヲ非常ナ熱心ヲ以テ研究シツ、アルノデアリマス（ゾンナコトハ誰モ知テ居ル）ト呼フ者アリ）知テ居レバ、其通りヤラウト云ブト云フコトハ外務省ノ務メアリマスルガ、此二十七箇國ノ大公使が集テ居ル、非常ナル幸ナル所ニ、日本ノ有力ナル大德大知識ト云フヤウナ公使ガ、外務省ノ大命ヲ受ケテサウシテ、彼ノ處ハ宗教本體ニアリマス、學問本體ニアリマス、其處ニ東洋ノ總アノ學問ヲ背負フタル人々行シテサウシテ歐洲ノ今求メテ居ル所ノモノニ光明ヲ與ヘマスルナラバ、是ハ唯、獨リ現在ノ外交問題ノミナラズ、世界中ノ永遠ノ平和ヲ、或ハ學問、或ハ哲學、或ハ宗教ニ於テ相結ブコトガ出來ルヤウニナル、最モ大切ナル機會ヲ與ヘラレタルモノデアルニ拘ラズ、彼等ハ小サイ僅ニ唯、日本ノ在來ノ宗教ニ媚ビシテ、政府ノ恩寵ヲ受ケテ、位地ノ貴イトカ低イトカ云フコトヲ目安トシテヤルト云フコトハ、最モ殘念極マル事デアリマス、衆議院ハ満場一致ヲ以テ委員長ガ報告シタルガ如キ意義ヲ以テ、此費用ヲ削除致サレマシタコトハ極メテ殘

念ニ思ノデアリマス、願クハ衆議院諸君カ再ビ此事ニ付テ勘考シテ、之ヲ復活セシムル所ノ勇氣アリヤ否ヤヲ申述ベタノデアリマス（拍手）

○議長（柏谷義三君）是ヨリ議事ニ入りマス、日程第一、煙草專賣法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——政府委員

## 第一 煙草專賣法中改正法律案（政府提

第一續會

煙草專賣法中改正法律案

（出）

煙草專賣法中改正法律案

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量目ヲ査定ス但シ

查定ノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條及第十七條中「又ハ葉數ヲ削ル

第十三條中「煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サ

レハ第十一條ノ査定前ヲ「煙草耕作者第十一條ノ査

定ヲ受クル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ

其ノ査定前三改ム

附 則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員西野元君登壇）

○政府委員（西野元君）私ハ只今日程ニ上リマシタル煙草專賣法中改正法律案ニ付キマシテ、簡單ニ其提案ノ理

由ヲ申上げタイト存ジマス、現行煙草專賣法ニ於キマシテ

ハ、葉煙草ノ收穫前ニ於テ、其收穫ノ量目又ハ葉數ヲ査定

致シマス、以テ葉煙草密賣等ノ犯則ヲ取締ルコト、ナツテ

居リマスケレドモ、本法施行以來年ヲ閏スルニ從ヒマシテ、

密賣買其他ノ犯則ハ漸次減少シテ參ルコトニ相成シテ居リ

マシテ、隨テ現今ニ於テハ事實上量目ノ査定ノミニ止メマシテ、葉數ノ査定ハ之ヲ施行シナイ狀態ニ相成シテ居ルノデア

リマス、仍テ今回專賣法ノ規定ノ中カラ、此葉數査定ノ事

ヲ削除致シマスルト同時ニ、此量目ノ査定ニ付テハ產地ノ

全部ニ亘リマシテ、必シモ之ヲ實行致ス必要ノナイ場合ニ

於キマシテハ、政府ニ於テ之ヲ省略シ得ルノ途ヲ、開キタイト

第一條中「沖繩縣ヲ除ク、沖縄縣ノ區及町村」ヲ削ル

第二條中「百分ノ二十九」ヲ「百分ノ四十一」ニ、「百分ノ四十七」ヲ「百分ノ六十一」ニ改ム

附 則

本法ハ大正十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

（國務大臣水野錦太郎君登壇）

本法公布ノ日迄三北海道、府縣其ノ他ノ公共團體カ營

業稅附加稅ニ付制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於

テ其ノ制限外ノ賦課率ハ之ヲ本法ニ依リテ許可ヲ受ケ

タル制限外賦課率ヲ看做ス

（國務大臣水野錦太郎君登壇）

只今日程ニ上リマシタ

○議長（柏谷義三君）日程第一、右議案ノ審査ヲ付託ス

ヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

## 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○高見之通君 委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名セラレントコトヲ望ミマス

○議長（柏谷義三君）高見君ノ動議ニ御異議ナイト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、第四ハ關連シタ議案ニアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシト呼フ者アリ」）

○議長（柏谷義三君）御異議ナイト認メマス、乃チ茲ニ日程第三、都市計畫法中改正法律案、日程第四、明治四十一年法律第三十六號中改正法律案、右二案ヲ一括シテ議題ト致シマス、其第一讀會ヲ開キマス——只今ノ三十六號ト申シマシタハ七號ノ誤アリマスカラ訂正シテ置キマス

○議長（柏谷義三君）御異議ナシト呼フ者アリ

○議長（柏谷義三君）高見君ノ動議ニ御異議ナイト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、第四ハ關連シタ議案ニアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシト呼フ者アリ」）

○議長（柏谷義三君）御異議ナイト認メマス、乃チ茲ニ日程第三、都市計畫法中改正法律案、日程第四、明治四十一年法律第三十六號中改正法律案、右二案ヲ一括シテ議題ト致シマス、其第一讀會ヲ開キマス——只今ノ三十六號ト申シマシタハ七號ノ誤アリマスカラ訂正シテ置キマス

○議長（柏谷義三君）御異議ナシト呼フ者アリ

○議長（柏谷義三君）高見君ノ動議ニ御異議ナイト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、第四ハ關連シタ議案ニアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシト呼フ者アリ」）

○議長（柏谷義三君）御異議ナシト呼フ者アリ

○議長（柏谷義三君）御異議ナシト呼フ者アリ

（「異議ナシト呼フ者アリ」）

附加稅ガ此制限内ノ徵收額ニ於キマシテ、約千五百万圓ノ減收ヲ見ルコトニナルノアリマス、而シテ今日地方財政ノ現況ニ鑑ミマスレバ、此千五百万圓ト申シマスノニハ、之ガ補填ノ必要ヲ認メルナアリマス、併シ現味經濟界ハ不振ノ際デアリマスカラ、成ベク營業者ノ負擔ヲ増大スルコトノナイヤウニ致シタイト思ヒマス、同時に此千五百万圓ヲ地方稅ノ缺損ニ致シマスレバ、地方ノ財政上ニ困難ヲ來シマスルカラ、成ベク此兩様ヲ緩和致シマスル所ノ地方稅ノ制限ヲ設ケタイト思フノアリマス、其結果ト致シマシテ約千二百有餘万圓ノ程度ニ止メマシテ、營業稅附加稅率ノ引上ヲ爲スコトニシタノアリマス、而シテ其殘ル所ノ約三百萬圓ト申シマスルノハ、之ヲ地方費ノ整理ニ出シマシテ、成ベク他ノ稅源ニ之ヲ取ラヌト云フコトニ致シタノアリマス、是ガ營業稅ノ附加稅率ニ關スル法律ノ大要デアリマス、而シテ又沖繩縣ニ付キマシテ多少ノ法律ノ改正ヲ致シタイト思フノアリマス、沖繩縣ニ於キマシテハ、地租附加稅ニ關シマシテノ從來特別ノ稅率ノ定めガアタノアリマスガ、今日リマスカラ、之ヲ一般縣下同様ニ改メルコトニ致シタノアリマスコト、致シタノアリマス、是ガ此兩法律ヲ提出スルモ、只今申シマシタ所ノ營業稅ノ附加稅ニ關スル改正ト同致シマス(拍手)

○議長(柏谷義三君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、作間耕逸君  
○作間耕逸君 本員ハ此場合ニ於テ質問セント致シマシタ趣旨ハ、別ニ質問ノ形式ニ依シテ提案致シテ置キマシタカラ、此際ニ於ケル發言ノ通告ハ撤回致シテ置キマス  
○議長(柏谷義三君) 板野友造君  
○板野友造君 本員ハ簡單デアリマスカラ、此席カラ申上ダムス、都市計畫ノ改正案ガ出マシタカラ、此際御尋致シマス、其第一ハ都市計畫ニ付テハ此法律制定ノ際カラシテ、政府ノ方デ此事業ニ對シテ補助スル、斯ウ云フコトガ議會ニ於テモ明言サレテ居ダムスコト此際御尋致シテ置キタイト思ヒマスルノハ、政府ハ依然トシテ此都市計畫ヲ施行シテ居ル都市ニ對シテ、補助ヲ爲ス意思ヲ有スルカ否カ、補助ヲ爲ス必要ヲ認メテ居ルトスレバ、如何ナル程度ニ於テ補助ヲ爲サントシテ居ルノアルカ是ガアツ、ソレカラモウツハ都市計畫法第八條ノ中ニ於テ、都市計畫事業ノ財源トシテ特別款ノ一二三ノモノヲ掲ゲテ、其他ハ之ヲ勅令ヲ以テ規

定ル、財源ニ付テハ、勅令ヲ以テ規定スル、斯ウ云フコトヲ第八條ニ規定シテ居ルガ、其後一向勅令ノ發布ヲ見ナイマス、大體サウ云フコトニ旨テ取扱テ居リマス、如何ナル内容即チ如何ナル特別稅ヲ起スコトヲ許サントスル考テアルカ、此一ツニ付テ政府ノ答辯ヲ求メマス

## 〔國務大臣水野鍊太郎君登壇〕

○國務大臣(水野鍊太郎君) 板野君ノ御問ニ御答致シ

○高見之通君 日程第三及第四ノ兩案ヲ一括シ、林田

龜太郎君外一名提出、明治四十一年法律第三十七號中

改正法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ニマス

ヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

## 第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(柏谷義三君) 高見君ノ動議ニハ御異議ナシト認

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、種牡馬檢

查法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、白川政府委員

ノアリマス、第一點ハ都市計畫法ノ八條ニ於ケル特別稅ノ

事アタト記憶致シマス、此特別稅ハ私共ノ口々今考ヘテ居

リマス所デハ、ドウ致シマシテモ都市計畫ノ財源トシテ、特別

ハ道路、或ハ水道、下水、是等ノ事柄ニ付キマシテハ、從來ノ

通り財政ノ許ス範圍ニ於テ補助ヲ爲スノ意思ヲ持テ居ル

ノアリマス、第二點ハ都市計畫法ノ八條ニ於ケル特別稅ノ

事アタト記憶致シマス、此特別稅ハ私共ノ口々今考ヘテ居

リマス所デハ、ドウ致シマシテモ都市計畫ノ財源トシテ、特別

ハ道路、或ハ水道、下水、是等ノ事柄ニ付キマシテハ、從來ノ

通り財政ノ許ス範圍ニ於テ補助ヲ爲スノ意思ヲ持テ居ル

ノア

○議長(柏谷義三君) 日程第七、右議案ノ審査ヲ付託  
スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

## 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○高見之通君 委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名セ  
ラレンコトヲ望ミマス

(賛成「賛成」ノ聲起ル)

○議長(柏谷義三君) 高見君ノ動議ニ御異議ナイト認  
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八、産業組合  
中央金庫法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨聲明  
ヲ許シマス、横田千之助君

## 第八 産業組合中央金庫法案(床次竹二郎君外十一名提出)

### 第一讀會

産業組合中央金庫法

第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事

務所ヲ東京市ニ置ク  
産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トシ産業組合  
聯合會及産業組合ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ  
從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリストキハ  
産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ  
得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立免許ノ  
日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間  
ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ  
之ヲ三十萬口二分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金額ノ拂込前ト雖出資  
者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増  
加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外產  
業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會並産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ  
二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限り産業組合中央金庫  
ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於  
テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモ  
ノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初  
ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ  
ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之  
ヲ準用ス

第七條 商法中株式會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段  
ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之  
ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課  
セス

### 第二章 役員

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長副理事長各一  
人理事監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ  
事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理  
事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ  
從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、副理事長理事及監事ハ主務大臣  
之ヲ任命ス

副理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任  
期ハ三箇年トス但シ其ノ任期満限ノ後再任ヲ命スル  
コトヲ得

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内  
ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上六産業  
組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營  
ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮詢ニ應スル  
モノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノ  
トス

一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ  
擔保ヲ徵セシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲  
スコト

二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ  
手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ  
爲替業務ヲ爲スコト

### 第三章 業務

第十九條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限  
リ産業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第百九十九條及  
第二百條ノ二ノ規定ヲ準用セス

第二十條 産業債券ハ券面金額五十圓以上下シ無記  
名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求三依リ記  
名ト爲スコトヲ得

### 第四章 産業債券

第二十一條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲

四 産業組合聯合會、産業組合、公共團體又ハ營  
利ノ目的トセサル法人ヨリ預り金ヲ爲スコト  
第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタ場  
合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務  
ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ定期預り金ヲ爲スコ  
トヲ得

第十六條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外  
預り金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 預り金ノ四分ノ一以上ハ國債又ハ公債ノ買入、  
大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀  
行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 公共團體、産業組合聯合會、産業組合其ノ他  
營利ノ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ爲スコ  
トヲ得

三 國債又ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月  
以内ノ短期貸付又ハ千形ノ割引ヲ爲スコト

第十七條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村  
其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ元利金ノ  
拂込期日ヲ過ぎテ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償  
還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲サルトキハ産業組合中  
央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ府縣ニ對シ  
テ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル  
公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ  
爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他  
法律ニ依リ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞元利金  
ヲ拂込マシムヘシ

第十八條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

### 第五章 附則

第一項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第二項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第三項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第四項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第五項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第六項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第七項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第八項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第九項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十一項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十二項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十三項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十四項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十五項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

第十六項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業  
務ヲ營ムコトヲ得ス

一時第十九條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十二條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行

後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相

要セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 産業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ

要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權利ヲ失フモノトス

第二十四條 産業債券ノ發行ニ關スル印紙稅及登錄

稅ハ之ヲ免除ス

第二十五條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券

模造取締法ヲ準用ス

第五章 計算

第六章 產業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十七條 產業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ監督ス

準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ以上ヲ積立ツヘシ

第二十六條 產業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十八條 主務大臣ハ產業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

第二十九條 產業組合中央金庫ハ其ノ定期ヲ變更セ

ムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 產業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受

クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 產業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ状況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第三十二條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ產業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十三條 產業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テルトキ亦同シ

第三十四條 主務大臣ハ特ニ產業組合中央金庫監理官ヲ置キ產業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十五條 產業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財產ノ状況ヲ検査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ產業組合中央金庫ニ命シテ業務

上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

產業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般

ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 產業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ產業組合中央金庫ノ理事長副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十六條ノ規定ニ反シ預り金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十八條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十九條第一項及第二十一條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

六 第十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第三十九條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ產業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十條 設立委員ハ定期ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出资者ヲ募集ス

第四十一條 設立委員ハ出资者ノ募集終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ產業組合中央金庫設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

第四十二條 創立納會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ產業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十三條 創立納會終結シタルトキハ設立委員ハ其

ノ事務ヲ產業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

(横田千之助君登壇)

○横田千之助君 諸君、本案ハ中產以下ニ對スル金融機

團ヲ設立スル爲ニ、民法第三十三條ノ規定ニ依テ、公益的營利法人ノ樹立ヲ目的トルモノニアリマス、章ヲ分ツコトナシテ、法條ヲ含ムコト四十二、之ヲ法律的ニ解釋ヲレバ、

此法案ノ中ニムソカシキ條項ハ五ツカ六ツニ過ギナ、跡ハ

事務的ノ規定ダ多イノニアリマス、併ナカラ今期議會ニ於

テ、各黨各派ノ間ニ農村振興ノ問題ガ大ニ起り、而モ根本

政策ニ伴テ此農村ノ急ニ廢ズル爲ニ、應急ノ政策モ亦必

要ナリト云フ聲ガアル時ニ於テハ、唯、法律的說明ヲ以テ

満足スルコトハ出來ヌノニアリマス(ヒヤー)加之本案ガ

世ニ現ル、ヤ一部ノ銀行家、學者、論客、是等ノ方面カラ

既ニ反對的批評ノ聲モヤカマシイニアリマス、尙ホ議場ニ

於テハ少クトモ下院ノ議場ニ於テハ、大勢本案ヲ迎ヘルヤ

ウデアリマスルケレドモ、發案者タル私ノ手許ニ來ル所ノ有

力ナル方面ニ、強キ反對ガアルト云フコトヲ豫メ諸君ニ警

告シテ置カナケレバナラナイ、其反對ハ未だ勢力ヲ成シテ形

ニハ現レテ居ラヌ、併ナガラ此法案ガ活動スペキ所ノ直

接間接ノ問題ノ勘ニ向テ、時刻ハ遅レテ居リマスルガ、多

少諸君ノ時間ニ付テ寛大ナル雅量ヲ持タレンコトヲ豫メ希

望シテ置キマス(拍手)此法案ノ特質ハ、中產以下ニ對スル

金融機關アルト云フコトハ既ニ申上ダタ通り、更ニ擔保

短期貸付、即チ對人信用ヲ基トスルト云フコトガ第二ノ要點ニナフテ居リマス、其組織ニ於テハ株式會社ノ營利的性

質カラ努メテ遠ザカル爲ニ、相互組織ノ組合ニ基礎ヲ置ク

ト云フコトニナフテ居ルノアリマス、其勘ニ方面カラ行キマ

スレバ、此金融ノ機關ヲ置イテ、金融市場、寧口金融市場ト

云フヨリハ、國家ノ各方面カラ吸收スル所ノ預金部ヨリ呼

出ス所ノ低利資金ノ源泉ニ向テ、茲ニ貯水池ヲ置カウト

云フノデアル、此時水池カラ產業聯合會、產業組合ト云フ

用水路ヲ通ジテ、中產以下ノ農民ノ勤勞ニ向テ灌漑ヲシ

ヤウト云フノガ本案ノ勘ニナフテ居ル、說ヲ爲ス者ハ、斯ノ如

キ組織ハ今日ニ於テハ既ニ國家ハ用意シテアル、曰ク勸業

銀行ノ勘、農工銀行ノ勘、是等ノモノガアル以上ハ、殊ニ二

三年來は等ノ銀行條例トカ銀行法規ノ上ニ對人信用貸

付ノ途ヲ規定シタル規定ガ開カレタ以上ハ、此法案ノ如キ

ハ——此中央金庫ノ如キハ屋上屋ヲ架スモノナニカト云

フ議論ガアルノデアル、併ナカラ勸業農工銀行ハ御承知ノ

ト云フコトハ言フ迄モ無イガ、加之何十年間銀行ノ成長シ

テ居ル所ノ歴史的關係ニ於テ此銀行ノ内部ノ取引ハ、悉

ク對物信用ト云フ所ノ性質ニ向テ成長シ來タノアリマ

スカラ、如何ニ銀行法規ノ規定ヲ直シテ見テモ、是ハ對人

信用無擔保主義ニ向テ此ニ集タル所ノ資金ヲ注入レル

アリマス、中央金庫ハ產業助長主義ト云フ意味ナクシテ、

全然社會政策ノ見地カラ出テ居ルノデアル、前段申上ゲマシタ通り、中央金庫ト云フ「タンク」ヨリ産業組合ノ用水路ヲ通ジテ、短期少額ノ無擔保貸付ヲ主トスルノデアリマスカラ、全然社會政策ノ見地カラ出テ居ルノデアリマス、他ノ方面カラ見マスト、勸業銀行農工銀行ノ規定ハ、或ル方面ニ於テハ、擔保主義トナリ、或ル方面ニ於テハ對人信用主義トナラニテ居ルノデアリマスガ、此中央金庫ハ全然ソレヲ排斥致シマシテ、併行主義ヲ避ケテ、専門ニ中產以下ノ無擔保貸付主義ニナラニテ居ルノデアリマス、且又是等銀行ノ仕事ト云フモノハ株式組織アリマスカラ、國家が優越ナル或ル特殊ノ待遇ヲ與ヘテアリマスケレドモ、是亦純然タル營利會社デアルコトハ爭ハレナイ、中央金庫ハ此四十二條ノ規定ノ中ニ點々散在スル如ク、努メテ非營利主義ノ形式ヲ採リ、出來ルダケ組合員ノ利益分配ヲ制抑シテ、中產以下ノ農民——大部分ノ農民ニ資金ヲ融通シヤウト云フ精神ノ上ニ立脚シテ居ルノデアリマス、勸業銀行農工銀行等ノ從來ノ歴史沿革其體ヲ見マスト、多ク絮説スルコトヲ要セズシテ、中產以上ノ資本家ニ利用サレテ居ルコトハ明カデアル、國家ガ最初設立シタ目的ハ此ニ無カツカモ知レヌ、大部分ノ農村ニ向ヒ、此中ノ農民ニ對シテ、農業獎勵發達ノ爲ニ資金ヲ供給スルノガ半分以上ノ目的アリタカモ知レヌガ、爾來發達ノ經路ヲ見レバ、何人ト雖モ中產以上ガ多ク之ヲ利用シテ居ラニテ、中產以下ノ農民ノ利用ト云フモノハ、極ク小部分デアルト云フコトハ明白デアル、即チ今日ニ於テハアレ等ノ銀行ハ國家有要ノ機關デアリマスガ、餘りニ資本主義的色彩ガ濃厚ニナラニテ、是ダケラ以テ農村ノ衰廢ヲ防グナドト云フコトハ思モ及バヌノミナラズ、却テ資本主義ノ旺盛ニ向テ、一鞭ヲ加ヘル傾向ヲ持ソト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアリマス、土井権大君ハ先日此演壇ニ立テ、各大銀行が集メタ金ガ——貸付ケタ金ガ約百三十億而シテ此金ガ農村ニ向テ注ガレタノハ三億ニ過ギスト云フ數字ヲ舉グラレマシタ、其通リデアリマセウ、勸業銀行、正金銀行其他ノ大銀行ニ各方面カラ集ニテ來ル金ガ——貸付ケラレタ金ガ百三十億アルガ、此中カラ農村ニ注ガレタ金ハ三億ニ過ギスト云フコトヲ言フタ、跡百二十七億ト云フモノハ、農村ニ居ル農民ノ懷カラ差出サレテ供給サレタモ、デアリマス、然ルニ昨年組合ヲ通ジテ斯ウ云フ方面ニ使ハレタモノハ僅ニ二百何十万圓、組合以外ノ他ノモノヲ通ジテ使ハレタ金ガ五百万圓、然ルニ都市ニ向テ如何ニ此金ガ出テ居

ルカト云へハ、都市住宅組合ト云フモノミニ注ガレタ金ハ、  
實ニ一千萬圓ノ巨額ニ上テ居ルノアリマス、集ルモノ  
ハ——地方ノ農民ノ方面カラ來リ注ガル、モノハ、多クハ都  
市及中產以上ノ方面ニ注ガル、ト云フコトハ、土井權大君  
ノ掲グラレタル統計ト、今私ノ申上ゲタル統計ヲ對照セラル  
ルナレバ、思半バニ過ギルグラウト考ヘルノアリマス、斯様  
ナ意味ニ於テ都市否農村中產以下ノ農民多數ニ向テノ  
金融機關ハ、現在ニ於テハ斷ジテ満足ハ出來ナイ、是ニ於  
テ本案設立ノ必要ガ生ズルノアリマスルガ、尙ホ此點ニ付  
テノ心配ガアルト云フコトデアル、ソレハ何デアルカト云フト、  
近來此產業組合ノ發達ハ非常ニ若大ナモノアブ、日本  
ノ戶數一千万戶ノ中之ニ這入テル者ガ二百何十万、斯ウ  
云フコトニナシテ居ル、而シテ一万何千ノ組合ガアルガ、此組  
合ノ可ナリ良クナツモノハ、往々ニシテ此金ナドヲ使込ム者  
ナドガ出來、或ハ個人寄託ト云フ名義ニ於テ、始終不都合  
ナ事ナドガ出來ルノガ多イ、金ノ無イ組合ハ萎靡振ハズシテ、  
形式ガアニア精神ガ働くテ居ラヌ、斯様ナルモノヲ機關トシ  
テ、之ヲ唯一ノ機關トシテ、中央金庫ノ設立ヲシテ働ク爲ス  
カドウカト云フ所ノ心配ガアルヤウデアル之ニ付テ辯明ヲ  
致シテ置キタイノハ、此中央金庫ノ働くハ、此方面ニ付テハ二  
ツノ目的ヲ有シ、即チ未ダニ振ハントシテ振ハズ、形ガ備ニ  
テ其實體ガ完備セザルモノニ對シテハ、力メテ之ヲ助長ノ方  
針ヲ執テ、之ヲ段々盛リ起シテ活カシテ——出來得ル限り  
活カシテ行ク、發達ノ途中ニ在テ動モスレバ剩餘金ヲ個人  
預ナドランシテ、此間ニ何等カノ間違ガ生ジサウニナダモノハ、  
丁度成育シテ來タ所ノ少年少女青年男女ノ如キモノニア  
リマス、此所ガ大切ナ所デアルカラシテ、茲ニ中央金庫ト云  
フ保護役ハ附ケテ、斯ノ如キ剩餘金ト云フヤウナモノハ力メ  
テ之ヲ吸收シテ、東西互ニ相倚リ相助ケ、有無相通ジテ此  
中央金庫ニ依テ統一綜合制御スルト云フ所ノ目的ヲ持テ  
テ居ルノアリマス、右ハ此法案ニ包含シテ居ル所ノ大體ノ  
法條ノ説明デアリマスルカ、之ヲ又國民思想ノ上ニ政治的  
方面カラ考ヘテ行キマスルト云フト、此法案ノ働く此中央金  
庫ノ働くト云フモノハ、即チ一面ニ於テハ團結事能ノ發揮ト  
ナリ、一面ニ於テハ日本古來ノ美風タル、隣保相倚リ相助  
クル此情誼ノ延長トナルノアリマス、更ニ又家族主義ノ  
親愛味ノ擴大トナルノデアル、經濟的方面カラ見マスレバ  
長イ間世間ノ爲ニナリ、或ル場合ニ於テハ社會ノ發揮ト  
ナリ、一面ニ於テハ日本古來ノ美風タル、隣保相倚リ相助  
クル此情誼ノ延長トナルノアリマス、更ニ又家族主義ノ  
親愛味ノ擴大トナルノデアル、經濟的方面カラ見マスレバ  
所ノ一ツノ建物トナルノアリマス、他ノ方面カラ見テ行キ  
マスト云フト、樹ニハ町村制及府縣制ノ選舉權ノ擴張ニ依  
特スル所ノ一ツノ所謂制御トナル、此增上慢ヲ抑ヘル

テ、政治的ノ自治ニ對スル參與ノ區域ハ著シク擴大サレタ  
ノデアリマス、地方農民ニ向テ、共同一致シテ經濟的獨立  
經濟的自治ノ概念ヲ養ハナケレバナラヌ必要ガ今日最モ  
迫テ居ル、此場合ニ於キマシテ此法案ガ能ク効キマスレバ、  
此方面ニ大ナル力ヲ爲シ、大ナル基礎ヲ築クト云フコトハ多  
ク論ズルヲ要セシテ明白デアラウト考ヘルノデアリマス（拍  
手）説明ガ此所ニ至リマシテ、私が辯明ノ初頭ニ於テ申上ゲ  
テ置イタ所ノ有カナル反對論、隱レタル反對論ト云フモノヲ  
御紹介マシテ、之ニ對スル辯明ヲ一ツ加ヘタイト思フ、有力  
ナル反對論、隱レタル反對論、此反對論ハ動モズレバ上院ニ  
手ヲ伸バシテ、此法案ノ發展ヲ——穩健ナル發展ヲ害スルノ  
デナナイカト私ハ憂フル點アリマス、ソレハ外デナナイ大政  
治家ノ議論デアル、從來此現在ノ行政殊ニ行政費ヲ統轄  
スル大臣連中ノヤツテ居ル所ヲ見ルト、國務ハ段々複雜ニナ  
ルト同時ニ文化機能ガ分解シテ効ヲ爲ス、國家ノ機能ガ之  
ガ幾ツモ出來ルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ナイ、然ルニモ拘  
ラズ是ハ已ムヲ得ヌトシテモ、之ト同時ニ國家ノ綜合統一ヲ  
スル力ト云フノハ——機關ト云フノハ、此場合ニ於テ最モ嚴  
肅ニ嚴密ヲ加ヘナケレバナラヌノデアル、然ルニ獨リ此内閣  
トハ言ハヌ、長イ間ノ因襲ガ勢ヲ成シテ文化機能ハ段々ト發  
達シテ、内閣ト云フ綜合統一ノ機能ハ段々ト弱マテ來テ居  
ハ、是ニ於テカ各省悉ク籠城主義トナリ、割據主義トナリ、  
各省ノ大臣ハ國務大臣タル立場ヲ多クハ忘レテ、一省ノ行  
政長官タルコトニ重キヲ措イテ、一省ノ周僚ノ議論ガ國內  
ノ輿論ト映ズル、而シテ此屬僚ノ輿論ヲ提ダテ閣議ニ臨ン  
デ豫算會其他ニ於テ、若クハ法制ノ審議ニ於テ總理大臣ニ  
肉薄スル、斯ノ如キ狀態ニナツテ居ル、此弊害ノ根柢ニ向テ  
先づ政治家ハ斧ヲ加ヘナケレバナラヌ、激語デハアルカモ知  
レヌ、是ハ私ノ說デハナイ、内閣彈劾ノヤウニ聞エルケレドモ  
私ノ說デハナイ、其反對論ヲ紹介スルノデ、激語デハアルカモ  
知レヌカ、今日ノ狀態各省大臣ハ豫算分取ノ總大將デア  
テ、次官以下ノ役人ハ豫算分取ノ勇將猛卒デアル、斯ウ云  
フ評ガアル、是ニ於テ大藏大臣ハ何レノ場合ニ於テモ、積極  
的ト消極的トヲ問ハズ之ヲシカリ袋ヲ締メテ、何デモ出サ  
ナイヤウニ出サナイヤウニスルノガ職務ノ如クナツテ居ッテ、總  
理大臣ハ内閣書記官長、法制局長官ト云フ左右ノ翼ヲ使シ  
テ綜合統一ニ努メテ居ルガ非常ニ困難ヲ感ジテ居ル、言葉  
ヲ換ヘテ言ハバ、國家機能、國家意志ハ各省ニ分裂シテ發揮  
サレルカラシテ、何時モ國家ノ眞目的の大目的ト云フモノハ貫  
徹シナイト云フ斯ウ云フ狀態デハ、或ハ此法案ガ成立シテモ

部悉テ肯定スルモノデハアリマセバ、併ナガラ確ニ時弊ノ中  
心ヲ射抜イテ居ル、所ノ矢デアルト私ハ見テ居ル、或ハ制度  
ノ革新ヲ先デアフテ、此法案ノ成立ヲ後ニスルト云フノモ一  
ノ議論アリマスダ、私ハ別ノ方面カラ此法案ヲ先ニ出シテ  
宜イト云フノ一ノ安心ヲ持テ居ル、ソレハ何デアル、行政組織  
ハ今私が紹介シタ程デナクテモ、サウ云フ弊害ガアリマセバ、  
併シ行政組織以外ニ、全國論ノ大部分が此農村ヲ振興シ  
ナケレバナラバ、金融機關ノ用水路ヲドンナモノデモ差當リ  
作テナケレバナラヌト云フコトニ熱狂シテ居ル所ニ、此ニ見ル  
所ガ私ニ在ル（拍手）此鬱鬱氣、此環境ノ下ニ用水路ヲ置  
キマシタナラバ、行政機能ハ或ハ之ニ向テ、完全ナル所ノ法  
ト世話焼ハ今ハ不十分カ知ラヌ、然レドモ民論カラ起ル此  
力ニ依テ是ガ動力トナフテ、中央金庫ノ機能ト云フモノガ  
十二分ノ活動ヲスベキ方面ニ向フト云フノハ、私ハ確カデア  
テウト云フ確信ヲ以テ提出シタノアリマス、諸君、尙ホ私ハ  
此法案ニ聯關シテ御語ヲ致シテ置キタイ事ハ、固ヨリ此法  
案ガ獨立孤行シテ國家民人ニ大ナル寄與ヲスルト云フ程  
ニ、私ハ統法律家ニハ落テハ居ラヌ、此法律ガ出來テ、而  
シテ此法律ヲ周圍ヨリ盛上グル所ノ各種ノ機關ガ其頭ニナ  
ラナケレバナラヌ、是ニ於テ吾々ハ他ノ別個ノ方面カラシテ、  
行政ノ根本的整理制度ノ革新、是ハドウシテモシナケレバ、  
斯ウ云フ法律ヲ幾ラ作ッテモ、本當ノ懶ハ出來ヌト云フコト  
ヲ私共ハ考ヘテ居ル、此意味ニ於テハ私共ハ革新俱樂部ノ  
方々ガ、其政綱ノ多數ノ中ニ行政ノ根本的整理、根本的革  
新ヲ絶叫セラル、上ニ於テ、空谷聲響ヲ聞クノ感ヲ憚クノデ  
アリマス、唯、革新俱樂部ノ方が高イ理想ノ松明ヲ掲ゲテ、  
國民ヲ指導セラレヤウツル此點ニ於テ、國政ニ貢獻スルコ  
トハ私ハ多イト信ズル、國民黨ノ歴史ヲ飾ル多年ノ仕事ハ  
間ノ歴史アリマス（拍手）此法案ノ設立——此法案ノ提出  
モ此意味カラ成テ居ル、吾々が行政ノ根本的整理ト云フコ  
トヲ御語ヲシタ點ニ於テ、憲政會ノ尊敬スペキ方々カラ屢々  
冷笑ヲ承ル、或ハ不信用デアルト云フコトノ言モ吐カレルノ

ハ甚ダ以テ私ハ遺憾ニ思フ、是ハ黨派ノ異同ヲ問ハズ、政  
治家ガ今見テ以テ爲サナケレバナラヌ大事ナ仕事デアル、之  
ガ無ケレバ——之ガ出來ナケレバ、此法案が幾々全會一致デ  
通フテモ本當ノ精神ハ慇カナイ、而シテ此行政ノ根本的整  
理ノ前途ニハ、憲政會ノ聰明ナル方々ガ其遠行ヲ危マル、  
ヤウニ種々ノ難關ガアル、殊ニ近頃副皇博士ナドノカラヤ  
カマシイ問題トナリ居ル所ノ樞密院論、此樞密院ノ方面ナ  
ドニ付テハ非常ナル困難ガ横ハシテ居ル、然レドモ樞密院ノ  
諸君子モ長キ經驗ノ上カラ割出シタル所ノ保守、自重因  
襲尊重ノ風ニハ満チテ居リマスケレドモ、若シ議會多數ノ意  
嚮カ此ニ在ルト云フコトカ一致シタナラバ、之ヲ阻害スルコ  
トノ勇氣ナダガアルモノデナイト云フコトハ、私ハ斷言シテ置  
キマス(拍手)此意味ニ於テ憲政會ノ方々ハ、皮相ノ松明ヲ  
高ク掲ゲルト云フコトヲ仕事トシテ居ラレルヨリハ、實行的  
政黨トシテ任ジラレテ居ルヤウデアル、此方面カラ云フト、吾  
吾ノ行政整理ノ問題ト云フモノ冷笑スルドコロデハナイ、  
之ニ參加シ追隨セラル、ノガ政黨トシテノ本義デアル(拍  
手)諸君、細カイ點ニ付テ御詫ラスベキ點ハ幾多モアリマスケ  
レドモ、是ハ委員會ニ譲リマシテ、尙ホ此問題ト諸君ノ熱心  
ナル普通選舉ノ關係等ニモ論及シテ、此法案ト云フモノガ  
此方面ニ勤ラ爲スト云フコトヲ一言致シタイ、吾々ハ地租  
委譲ヲ唱ヘ、而シテ又地方自治制ノ政治的參與ノ方面ニ  
大擴張ヲ加ヘ、更ニ此方面カラシテ、地方民ノ經濟的ノ  
自治ニ向シテ自覺ヲ促シテ居ル、斯ノ如ク地租ノ委譲、地方  
行政ニ對スル參與ノ區域擴大、而シテ本案ノ提出、是等ノ  
三方カラ攻寄セテ來テ是カラ打出ス所ノモノガ、眞ニ日本ノ  
國體、國情、民情ニ合致シタル所ノ、選舉權ノ擴張トナルト  
云フコトヲ今日カラ御詫ラシテ置ク(拍手)更ニ是等ノ法案  
ト云フモノハ、吾黨經繪ノマダ閃ニ過ギナイ(笑聲起ル)諸君ハ  
冷笑サレルガ、且ヲ刮マシテ吾黨將來ノ活動ヲ見ヨ(拍手)  
吾黨經繪ノ閃ニ過ギナイ(此閃カラ數千條ノ光芒ヲ發シテ)  
陸離トシテ國家民人ノ前途ヲ照スノモ永キ未來デハナイト  
云フコトヲ茲ニ斷言スル(拍手)本案ノ各條章ニ付キマシテ  
ハ不十分ノ點モアルカモ知レヌ、是等ノ事ニ付マシテハ各黨  
各派ノ意見ニ基イテ、之ヲ美化シ、玉成スル點ニ於テハ、吾々  
ハ答ナラヌ者デアルト云フコトヲ諸君ニ告ケテ證明ノ終リト  
致シマス(拍手)

フノアアリマシテ、私共殊ニ最近露西亞ガアル程ノ革命ヲシナガラ、尙ホ産業組合ハ儼トシテ存シテ居ルト云フ事山カラ致シマシテモ、如何ニ是ガ人間共存ノ生活ノ原理ニ適フテ居ル主義デアルカト云フコトヲ知ルコトガ出来ルノデアリマス、サウ云フ意味合カラ、私ハ最近獨リ庶民ノ經濟上ノ問題デナクシテ、モウ少シ根本ニ入テ思想的ニモ此産業組合ノ發達ヲ期シタイト祈テ居ル一人デアリマシテ、自ラ小サイ經驗ナドヲ以テ、此法案ニ對シテハ殊更興味ヲ持テ居ル一人デアリマス、同僚ノ土井權大君モ年來熱心ナル組合運動者デアリマシテ、此度大政黨政友會ヨリ政府ニ先ンシテ、斯ル法案ノ出タコトニ付キマシテハ、私ハ政友會ニ敬意ヲ表シタイト思フノデアリマス、併シ其根本ノ思想ニ付テ今少シク私ハ提案者ニ對シテ御尋シタイト思フノデアリマス、ソレカラ又一面當局者ニ對シマシテモ、二三此機會ヲ藉リマシテ御尋ニシタイト思フノデアリマス、第一ノ點ニ付キマシテ、現在產業組合ノ運用上困ルノハ勿論中央ノ金融機關ニ因テ居ルデハアリマスルケレドモ、寧ロソレモリモ普通ノ金融機關普通銀行トノ連絡上云々タヤウナ點ニ於キマシテ、非常ナル不便ヲ感ジテ居ル、若シ一步進ンデ之ヲ組合ノ中央金庫トセズシテ、寧ロ特殊銀行トシテ一般金融界ト連絡シテ、始メテ本當ノ機能ガ達セラレルデハアルマイカ、私ハサウ云フ意味合カラ寧ロ産業銀行或ハ産業組合ノ中央銀行トシテ、普通銀行ト取引スルヤウナ仕組ニ何故セラレナカッタカ、是ハ最モ重要ナル點ト自分ハ思フノデアリマス、ソレカラ私ハ殊ニ此法案ノ非常ナル缺點ト思ヒマスル點ハ、獨リ産業組合ノミニ限テ居ル點ニ付テ、非常ニ自分ハ遺憾ヲ覺エテ居ル、只今横田氏ノ實ニ法案説明ノ「レコード」ヲ破リマシタ思想的背景ヲ帶ビタル御説明ヲ聽キマスルト、農村振興、中産以下ノ金融機關ヲ救濟スルト云フ點ニ付キマシテ、巨細ノ御説明ガアッタノアリマスルガ、今日ノ各種組合ハ獨リガモットトモ資金ヲ要求シ、其他ト連絡ヲ要求シテ居ルノデアリマス、唯、是ハ或ハ私ノ邪推カモ知レマセヌケレドモ、マレルト云フコトガ理想想デアルナラバ、何故斯ウ云フ澤山ノ組合ヲ看逃シテ居テ居テ、寧ロ數字ノ上カラシマスレバ、此他ノ組合ノ方ガモットトモ資金ヲ要求シ、其他ト連絡ヲ要求シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテ、特ニ提案者ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、サウシテ此法案ノ最モ缺點ナ

ハ、初論詳シイ寧ハ委員會テ申上ダマスケレモ、三箇組合ニ限テ居ルト云フコトニ付テハ、殆ド其機能ガ餘程薄ライデ業組合ニハ僅ニ一千六百万圓アリマス、然ルニ耕地整理、漁業、森林、畜産、其他ヲ總計シマスレバ、一億四千万圓ト云フモノニナマテ居ル、此數字カラ見マシテモ、私ハ此法案ヲ政友會カラ出サレタトキニ、多分漁業組合、森林組合ハ入テ居ルト思フテ居タ、是ガ明ニナレバ、既度要求ハ起テ來ルト思フノアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ横田君ハ——提案者ハ之ヲ改正スルノ意思アリヤ否ヤソレカラ現ニ勸業銀行ノミデモ、此各種ノ組合ニ對シテ一億四千万圓カラノ資金ヲ供給シテ居ルニ、今日此提案ハ政友會ノ只今ニヤウナ大キナ思想ヲ持タル御説明ニシテハ、餘リニ資本ガ小サイデハナイカ、斯ウ自分ハ思フノアリマス、アレ程ノ大キイ領袖ガ出来マシテ、大キイ聲ヲ爲サタカラニハ、モウ少シ私ハ資本ヲ大キクシテ欲シテイト思フノアリマス(拍手)此點ニ付テハドウ云フ御考デアルカ、ソレカラ是ハ思想的背景カラ私ドウシテモ肯ヒ得ナイノハ、此產業組合ノ基礎根柢トナルモノハ、法人ト同様二人間ヲ認メル——人格ヲ認メル、即チ多數ノ出資口ヲ持テ居ル者モ、一口ヲ持テ居ル者モ、唯、一人一票デアルト云フコトニ本當ノ面白味ガアル、然ルニ產業組合ノ中心機關ヲ造りナガラ、其機關ノ理事ヲ官廳ノ任免トシテ居ルハ是ハ矛盾擅着デアル(拍手)私ハ此點ニ付キマシテ此提案ノ根本ヲ作ルトキ、是ハ岐度大蔵省ニ行カレ、或ハ農商務省ニ行カレ、或ハ產業組合中央會ニ行カレテ、僕作リニ出來上タ提案デアルモノアリマス、殊ニ只今機關未ダ備ラズト云フ意味ニ於キマシテ、日本ノ政治界ノト恩フ點ハ、私ハ近來產業組合ノ中ニ於キマシテモ、特ニ市街地信用組合ハ他ノ組合ト違ヒマシテ、殆ド銀行ニ近イ業務ヲ致シテ居ル、斯ウ云フモノガ他ノ產業組合ト異ダ組合銀行ヲ造ルト云フコトノ必要ヲ越ジテ居リマスガ、之ニ對シテ政府ハドウ云フ意見ヲ持テ居ラル、カ、隨テ此中大金庫ハ勿論政府ト意恩相通ズル大政黨ノ提案デアリマスカラ、當局者モ御賛成ト見ヒマスガ、斯ルモノガ出來タシテ、或

ハ勸業銀行ノ中ノ興業貸付ヲ其方へ行クトカ其他色々按排スレバ、今日ノ勸業銀行、興業銀行、斯ウ云フモノ、性質ガ殊更ニ別ニ設クル必要ナクナフテ、將來ニ於テ勸業興業ノ合併ヲ必要トセラレヤウナコトデハナイカ、對ウ云フ點ニ付テ政府ハドウ云フ意見ヲ持テ居ラル、カ、今一步進ンデ言ヘバ、今日ノ特殊銀行ガ斯様ナ中央金庫ヲ造ズテ、社會全體ノ國家ノ金融政策ノ根本カラ致シマシテ、日本ノ特殊銀行ノ大改正ヲスル必要ナキヤ、勸興ノ合併ノミナラズ或ハ朝鮮銀行、臺灣銀行ノ銀行券ノ廢止ノ如キ、或ハ今一步進ンデ日本銀行ト國家ノ中心銀行ヲモ改造スル意圖ナキヤ、既ニサウ云フ時機ニナツテハ居ナイカ、斯ウ云フ點ニ付テ極々大難把テハアリマスカ、大體政府ハ各特殊銀行ノ條例改正ノ時機ニ達シテ居ルヤ否ヤト云フ點ニ付テ、御答辯ヲ得タイト思ヒマス、詳シイ事ハ委員會デ御尋致シマスダ、右御答辯ヲ願ヒマス

○横田千之助君 星島君ノ第一ノ御尋ハ、私ノ提案ノ説明ノ際ニ申シテ居リマスカ、此中央金庫ハ相互組合ノ組織デ、共助協力ノ精神デ出来テ居リマス、銀行ハ營利の方面ニ陥テ居ルカラ、中央金庫トシテ共助協力ノ機關トシテノモ、借ト云フモノトハ全ク別ナ事ニナルカラシテ、寧口是ハ今日ニ於テハ銀行ノ組織ナラバ、既存ノ銀行デ濟シテ居ル、ソレトハ別ノ方面ノモノヲ造ルト云フヨトガ本案ノ根本ノ性質デアリマスゾレカラ今一ツハ單リ産業組合ノミニ、若クハ産業組合聯合會ノミニ貸付ケルト云フコトハ、大變狭イ事デアリマスゾナイト云フ御質問デアリマシタガ、是モ提案ノ説明中ニ鑑シテアルト思ヒマス、即チ相互組合ノ是ガ働くデアフテ、唯、若干ノ例外ヲ附ケタル、餘裕金アル場合ニ於テハ、公益ヲ目的のトル法人は等ノモノ、手ヲ連シテ、相當ニ餘金ガアレバ貸付ケル、是ガ矢張本案ノ金庫ナルモノガ他ノ銀行ナド、ハ精神ヲ異ニシテ、別ナ働く中産以下ノ農村ニ向シテ、爲スベキ所ノ時代ガ來タモノト云フ見地カラ是ガ出來テ居リマス、金額少キニ失セズヤ、資本金少キニ失セズヤト云フ御尋、資本金六設立ノ當初最初ニ於テ政府拂込ガ千五百万圓(「聞エナイ演壇デヤ」下呼フ者アリ)私ノ聲ハ大イカラ聞エル筈ダ

○副議長(松田源治君) 田淵君、注意致シマス

○横田千之助君(續) 千五百万圓、三分ノ一ノ五百万圓、組合ノ拂込ムモノハ千五百万圓ノ五分ノ一三百万圓、合シテ八百万圓、社債ハ十倍ノモノガ發行出來ルノテアリマスカラ、初年ニ於テ八千八百萬圓ガ出來ルノテアリマス、是ハ固ヨリ第一歩テアリマスカラ、更ニ增资或ハ組合ノ増加、此方面カラ資本ノ増大ヲ來スヤウニ試ミタイト云フ考

○副議長(松田源治君) 田淵君自席ニ行ケ「登壇シロ」「登壇シロ」ト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 田淵君静肅ニ…(登壇シナカレバ聞エナイト呼フ者アリ)議長ハ許可シテ居ルカラ宣シテ御答ガ少シ洩レテ居ル事ガアリマス、今星島君ノ御心配ノ通り、色々ノ有力ナル特殊銀行ガ在ル限りハ、是等ノ銀行ガ特別ニ働イテ居ル間ハ(登壇シロ)「登壇シロ」ト呼フ者アリ(議長、私ノ説明ヲ妨害スル者ニ退場ヲ命ズルコトヲ願ヒマス)

○副議長(松田源治君) 田淵君ノ發言ヲ禁止致シマス(「登壇ト云フニ退場トハ何ダ」ト呼フ者アリ)

○横田千之助君(續) 議場ノ多數ハ登壇ヲ望ンデ居ラヌト云フコトヲ見テ居リマス——此金額ハ市場ヨリ吸收スルコトハ頗ル困難デアラウ、是ニ於テ國家ハ重農主義ノ基礎ニ立フテ低利資金ノ出來ルダケ多ク、將來此方面ニ迴シテ貰ハナケレバナラヌト云フ政策ヲ執テ貰ヒタイト考ヘテ、是ガ出来タ同時ニ低利資金ノ取入ヲスル上ニ於テ、理事長以下ノ人々官選ニスルノヲ便宜トスル、但シ民間カラノ要求ヲ全庫内ニ注入スル為ニハ評議員ノ規定ガアルカラソレヲ御参照ヲ願ヒタイ、辯明ノ終リニ申シタ通り、無論是ハ定體ノモノデハナイ、御熱心ナル各黨各派ノ人ノ御意見ヲ聽いて、之ヲ玉成スル爲ニ、修正ハ固ヨリ容カナルモノデハナイト云フコトヲ附言シテ置キマス

(黒田政府委員登壇)

○黒田政府委員 星島君ノ御質問ニ對シテ御答辯致シマス此法案ガ成立シマスルナラバ、市街地信用組合ニ付テモ矢張同ジャウニ中央倉庫ト云フ風ナモノヲ設ケル必要ハナガ、政府ハ如何ニ考ヘテ居ルカト云フ御質問ノヤウニ拜聴致シタノデアリマス、恐ラク此中央金庫ハ主トシテ市街地信用組合以外ノ農村ノ産業組合ニ向テ力ヲ注グヤウニナルコトハ考ヘテ居ルノデアリマス、又ソレガ目的デアラウト先程提案者ノ御説明モ拜承シタノデアリマスルガ、市街地信用組合ニ對シマシテハ、ソレト同様ニ特ニ茲ニ中央ノ機關ヲ設ケル必要ガアルト云フコトハ、今日ニ於テハマダ考ヘテ

マシテハ、其調査力未ダ及バズ、政友會トカ或ハ憲政會トカ  
或ハ革新俱樂部ノヤウナ團體ガ非常ニ之ヲ研究シテ爲ス  
キモノニアテ、今迄斯ウニ云フヤウナモノ、出テ居ラナイト云  
フノモ寧口不思議ニ感ジテ居タ位デアル、所ガ茲ニ農村救  
濟ト云フ事柄ニ付キマシテ、憲政會ハ前ニ地租二分減ハ宜  
イト云フ事柄デアタガ、私ハ反對ノ意見ヲ持テ質疑ヲシタ  
ノデアルガ、所ガ此產業組合ナルモノニ保護ヲスルト云フガ  
一體小作人ガドウ云フ工合ニ此恩惠ヲ蒙ムルノデアルカ、  
大抵大地主ト稱セラレル者ガ殆ド一「バーセント」位ヨリ農  
村ニハアリマセヌ、或ハ中地主ト云フヤウナ者ガ八「バーセン  
ト」又小地主或ハ自作農ノ如キニ至リマシテハ三十「バーセン  
ト」程アル、此等ノ人々ハ利益ヲ蒙テ、農村ノ中ノ六十  
「バーセント」ヲ占メテ居ル所ノ小作人ガ是等ノ恩惠ニ浴ル  
コトノ出來ルヤ否ヤト云フコトヲ御尋シタイノデアル、是ハ  
其ニデアリマス、大抵此地方ニ參リマスト云フト、自作農或  
ハ小地主等ハ總テノ上ニ於テ一致ヲスルノデアリマスガ、小  
作人ト云ヘバ直ニ昔ノ奴隸ヲ扱フヤウナ態度デ、同ジ組合  
ニ入レナイト云フヤウナ惡イ習慣ガアリマス爲ニ(「達ブ」)  
「ノウ〜」ト呼フ者アリ)是ハ政友會ヲ惡ク言フテ居リハシナ  
イ、サウニ云フコトガ現在我國ニ於テアルノデアリマス、サウニ云  
フヤウナモノヲ成ベク剰除ケテ自分等バカリ小サクスレバ小  
サクスル程利益ガ多イト云フ考カラ、遂ニ此小作人ヲ度外  
視シハシナイカト云フコトヲ憂ヘルノデアリマス、サウニ云  
問、是ガ若モ實現サレマシタナラ、農村ハ非常ニ助カルノデ  
ス、農村ト致シマスレバ、政友會ガ斯ウニ云フ事ヲ編出シタトス  
勢擴張等ニ之ヲ使フヤ否ヤト云フコトヲ憂フルノデアル、サ  
レバ、實ニ我國ノ農村ハ政友會様々デ(笑聲)或ハ之ヲ三部  
經以上ニ有難ガルカモ分ラヌ、併シ有難ク思ヘ思フ程其  
處ハ又附込ミ所トナリマシテ、此運用スル上ニ於テ、即チ黨  
勢擴張等ニ之ヲ使フヤ否ヤト云フコトヲ憂フルノデアル、サ  
ウ云フヤウナ事柄ガ無ケレバ結構デアルガ、成ベク無イヤウニ  
シテ戴キタイコトヲ希望スルノデアル、サウニ云フヤウナ黨勢擴  
張ノ爲ニ、既ニ鐵道ノ如キデモ反對黨ノ方デハアレハ黨勢擴  
張張ニ使フテ居ルト云フコトデアルガ、出來得ルコトナラバソ  
レハヤツテモ宜シイ、泥ガ少シ掛カルカラ自動車ノ便利ナ物  
ヲ廢メテシマウト云フヤウナ、サウニ云フ狹小ナ意見ヲ持テハ  
イケナイケレドモ、功德ガ多ク利益ガ多イ程、ソレ程又黨勢擴  
張張ニ使ヒタイモノニアラウト考ヘル、サウニ云フ憂ガ、此法律  
ノ運用ノ上ニ於キマシテソレガ使ヒ得ルヤウナコトデハイケ  
ナイカラ、サウニ云フコトハ絶對ニ避ケラル、コトデアルヤト云  
此ニ問ヲ御尋シタイ

組合販賣組合、事業組合、是等ノモノヲ組立ラレテ居リマシテ、勤勞ヲ資本化スル、即チ小作人階級ノ者ニ對人信用ヲ以テ金ヲ貸スト云フコトガ目的ニアリマス、此用水路ヲ通シテ中央金庫上云フ機關カラ金ヲ出スト云フノアリマスカテ、南君ノ主張セラル、多數ノ小作ニ向テ少額ノ短期信用ノ貸付ヲスルト云フコトガ、此本案ノ主ナル効キニナシテ居リマス、之ヲ御答致シマス、第一ノ黨勢擴張云々ノコトニアリマスガ、政黨ガ國利民福ヲ圖リ、其圖フタ結果ハ黨勢擴張ニナルト云フコトハ餘儀ナイ、唯々此機關ヲ惡用スルガ如キコトハ、政友會ノ人々ハ毫末モ考ヘテ居ラヌ所デアルト云フコトヲ、此場合申シテ置キマス（拍手）

○高見之通君　本案ハ政府提出、日本勸業銀行法中改正法律案外三件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス〔贊成〕〔贊成〕下呼フ者アリ

○副議長（松田源治君）　高見君ノ動議ニ御異議ガナイヤウデアリマス、其通り決シマシタ

○高見之通君　殘餘ノ日程ニ對シテ、延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成贊成〕下呼フ者アリ

○副議長（松田源治君）　是モ御異議ガナイヤウデアリマスカラ、爾餘ノ日程ニ向テハ延會ノ宣告ヲ致シマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知ヲ致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後五時五十三分散會